第2章

製薬産業について（イメージ、認知、期待）

サマリー

第２章　製薬産業について（イメージ、認知、期待）

＊（　）内は23年調査との比較

■ 製薬産業への信頼度は、前回より減少。
製薬産業のイメージは、社会的必要性、技術力、研究開発などに対する高評価を維持している一方で、自然環境への取り組みへの評価は低イメージ。全般的に時系列で大きな変化はない

- 製薬産業に対する信頼感　83.9%（4.1ポイント減）
- イメージ上位
  - 「社会的に必要性の高い産業」　90.5%（1.5ポイント減）
  - 「技術力が高い産業」　89.8%（2.3ポイント減）
  - 「国民生活にとって欠かせない産業」　88.9%（24年調査より追加）
  - 「研究開発に熱心な産業」　86.8%（1.3ポイント減）
  - 「将来性がある産業」　86.0%（1.0ポイント減）

■ 製薬産業を知る情報源トップ３

- 「テレビ、ラジオのニュースや番組で」　37.9%（1.6ポイント増）
- 「ウェブサイトで」　29.9%（5.1ポイント減）
- 「新聞の記事で」　20.1%（1.7ポイント減）

■ 処方されたくすりのメーカー名の認知意向率は前回よりわずかに増加、高認知率は微減。

- 認知意向率　57.9%（2.2ポイント増）
- 高認知率　「全て」＋「大体」＋「多少」　⇒　67.5%（1.6ポイント減）

■ 製薬産業からの情報入手意向は71.3%（0.5ポイント減）

■ 製薬産業、製薬会社への期待点では「安全・副作用の少ないくすりの開発」「よく効く・早く効くくすりの開発」が上位。「情報開示」「倫理観・モラル・誠実さ／コンプライアンス」「薬価の引き下げ」「新薬の開発／更なる研究開発」が続く

■ 新薬開発について（同意率）

「長い年月や莫大な費用をかけても新薬開発は必要」　90.2%（1.6ポイント減）
「製薬会社は新薬開発について内容を知らせるべき」　79.7%（1.5ポイント減）
「欧米等が進んで いるので、日本がやることはない」　23.8%（1.6ポイント増）
→否定　76.2%（1.6ポイント減）
「十分な治療薬がない疾患への治療薬を開発することは社会にとっても意義がある」
89.9%（0.2ポイント減）
「資源が少ない日本にとって新薬の開発はこれからも必要」　90.4%（1.4ポイント減）

■「治験」について「ある程度知っている」「治験という言葉は知っている」の双方を合わせた認知層の割合は、89.1%（1.5ポイント減）

■「治験」への参加意向は27.4%（2.0ポイント減）
参加してもよいと思う理由は、「社会の役に立つ」61.5%（5.6ポイント減）、「新しいくすりを試すことができる」「次世代のためになる」が続く。参加したくない理由は「副作用等のリスクが怖い」「不安がある」が上位

■ 医療データ制度の認知率は48.8%（5.8ポイント減）
医療データの医療関係者への開示意向率は18.5%（4.7ポイント減）
製薬会社での活用許容率は68.1%（1.6ポイント減）

1　製薬産業のイメージ

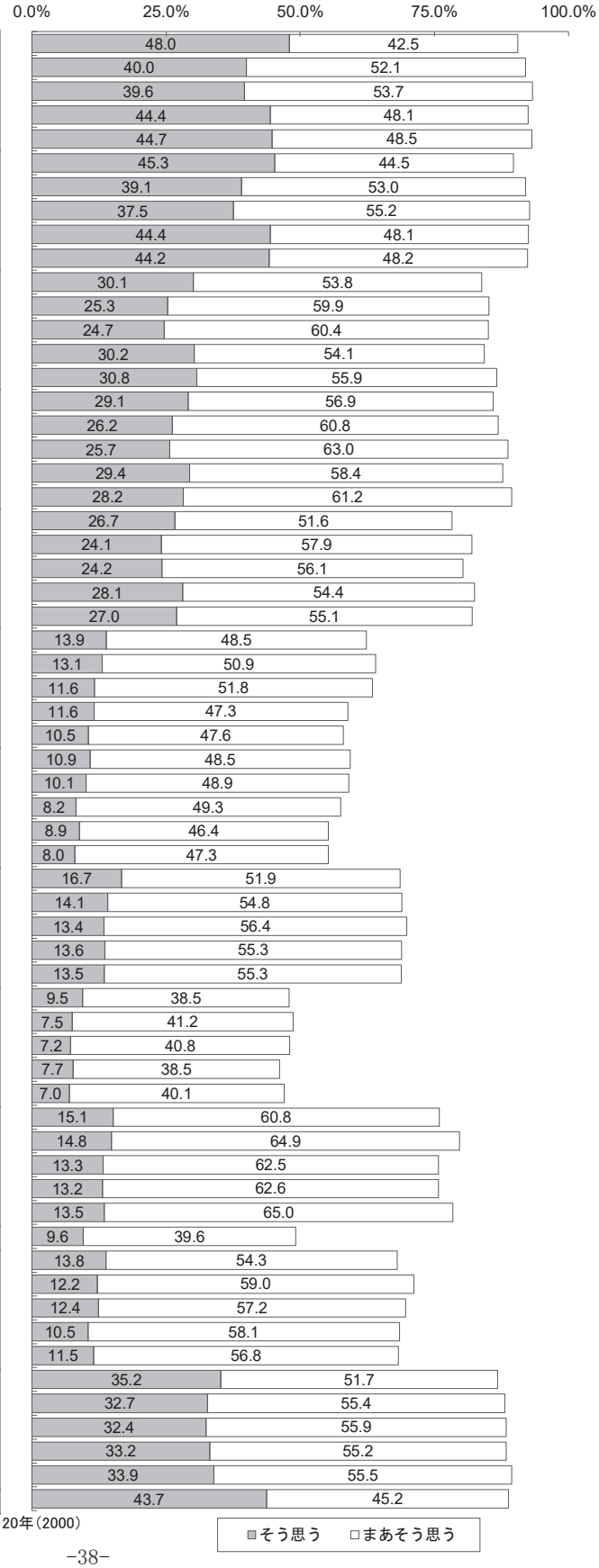
（1） 製薬産業のイメージ ［ 問10 ］

「社会的に必要性の高い産業」「技術力が高い産業」「国民生活にとって欠かせない産業」がトップ３で拮抗している

図表27. 製薬産業のイメージ（全体/肯定層/24年/23年/22年/21年/20年）

（%）

			肯定層	そう思う	まあそう思う
(1)	社会的に必要性の高い産業	24年	90.5	48.0	42.5
		23年	92.0	40.0	52.1
		22年	93.3	39.6	53.7
		21年	92.5	44.4	48.1
		20年	93.2	44.7	48.5
(2)	技術力が高い産業	24年	89.8	45.3	44.5
		23年	92.0	39.1	53.0
		22年	92.7	37.5	55.2
		21年	92.5	44.4	48.1
		20年	92.4	44.2	48.2
(3)	高収益をあげている産業	24年	83.8	30.1	53.8
		23年	85.2	25.3	59.9
		22年	85.1	24.7	60.4
		21年	84.3	30.2	54.1
		20年	86.7	30.8	55.9
(4)	将来性がある産業	24年	86.0	29.1	56.9
		23年	86.9	26.2	60.8
		22年	88.7	25.7	63.0
		21年	87.8	29.4	58.4
		20年	89.4	28.2	61.2
(5)	国際化が進んでいる産業	24年	78.3	26.7	51.6
		23年	82.0	24.1	57.9
		22年	80.3	24.2	56.1
		21年	82.5	28.1	54.4
		20年	82.1	27.0	55.1
(6)	情報を積極的に提供している産業	24年	62.4	13.9	48.5
		23年	64.0	13.1	50.9
		22年	63.4	11.6	51.8
		21年	58.9	11.6	47.3
		20年	58.1	10.5	47.6
(7)	消費者の声を聞こうとしている産業	24年	59.3	10.9	48.5
		23年	59.0	10.1	48.9
		22年	57.5	8.2	49.3
		21年	55.3	8.9	46.4
		20年	55.3	8.0	47.3
(8)	社会貢献に熱心な産業	24年	68.6	16.7	51.9
		23年	68.9	14.1	54.8
		22年	69.8	13.4	56.4
		21年	68.9	13.6	55.3
		20年	68.8	13.5	55.3
(9)	自然環境を守ることに熱心な産業	24年	48.0	9.5	38.5
		23年	48.7	7.5	41.2
		22年	48.1	7.2	40.8
		21年	46.2	7.7	38.5
		20年	47.0	7.0	40.1
(10)	経営がしっかりしている産業	24年	75.9	15.1	60.8
		23年	79.7	14.8	64.9
		22年	75.7	13.3	62.5
		21年	75.8	13.2	62.6
		20年	78.5	13.5	65.0
(11)	就職したい産業	24年	49.2	9.6	39.6
(12)	企業の倫理性が高い産業	24年	68.1	13.8	54.3
		23年	71.2	12.2	59.0
		22年	69.6	12.4	57.2
		21年	68.5	10.5	58.1
		20年	68.3	11.5	56.8
(13)	研究開発に熱心な産業	24年	86.8	35.2	51.7
		23年	88.1	32.7	55.4
		22年	88.4	32.4	55.9
		21年	88.4	33.2	55.2
		20年	89.4	33.9	55.5
(14)	国民生活にとって欠かせない産業	24年	88.9	43.7	45.2



調査数：24年（2000）　23年（2000）　22年（2424）　21年（2000）　20年（2000）

■ 肯定比率は「社会的に必要性の高い産業である」90.5%、「技術力が高い産業である」89.8%「国民生活に欠かせない産業」88.9%がトップ3である。以降も80%以上で「研究開発に熱心な産業である」「将来性がある産業である」「高収益をあげている産業である」が続く。
■ 肯定比率が最も低いのは「自然環境を守ることに熱心な産業である」48.0%、次いで「就職したい（周囲に勧めたい）産業である」の49.2%で、50%未満はこの2項目だけである。
■ 23年調査と比較してもほとんど変化はない。変動が最も大きいのは「経営がしっかりしている産業である」だが、3.8ポイントと微増である。
■ 肯定比率を男女別にみると、全項目で女性のスコアが男性を上回っているが、男女差が最も大きいのは「社会貢献に熱心な産業である」の10.1ポイント差となっている。
■ 年代別にみると、総じて高年齢層ほど肯定率が高い傾向だが、「社会貢献に熱心な産業」「自然環境を守ることに熱心な産業」「消費者の声を聞こうとしている産業」などは若年層の方が高い傾向がうかがえる。

図表28. 製薬産業のイメージ（全体/属性別/肯定層）

（単位:%）

		調査数	社会的に必要性が高い産業である	技術力が高い産業である	高収益をあげている産業である	将来性がある産業である	国際化が進んでいる産業である	情報を積極的に提供している産業である	消費者の声を聞こうとしている産業である	社会貢献に熱心な産業である	自然環境を守ることに熱心な産業である	経営がしっかりしている産業である	就職したい（周囲に就職を勧めたい）産業である	企業の倫理性が高い産業である	研究開発に熱心な産業である	国民生活にとって欠かせない産業である
全体	24年	2000	90.5	89.8	83.8	86.0	78.3	62.4	59.3	68.6	48.0	75.9	49.2	68.1	86.8	88.9
	23年	2000	92.0	92.0	85.2	86.9	82.0	64.0	59.0	68.9	48.7	79.7	－	71.2	88.1	－
性別	男	970	87.9	86.8	82.2	82.2	75.9	58.8	55.1	63.4	44.8	71.8	46.8	63.0	83.3	86.2
	女	1030	92.9	92.5	85.3	89.5	80.5	65.7	63.3	73.5	50.9	79.8	51.4	72.8	90.1	91.4
年代別	20代	270	81.9	81.5	74.8	76.3	71.1	65.2	65.2	73.7	55.9	70.4	52.6	68.9	78.5	81.5
	30代	276	85.1	84.8	82.6	82.6	75.4	68.5	65.9	69.9	52.5	74.3	54.7	71.4	83.0	83.3
	40代	334	88.3	88.3	80.2	85.3	77.2	64.1	62.0	70.4	50.6	75.1	54.8	65.6	85.0	87.4
	50代	364	92.0	90.9	84.9	86.3	79.4	57.4	55.5	68.1	41.2	77.5	48.4	65.1	87.1	89.0
	60代	257	93.8	93.0	86.8	86.8	79.0	63.0	57.6	68.1	42.8	75.1	45.1	64.6	89.9	93.4
	70代以上	499	96.8	95.4	89.4	92.8	83.2	59.5	54.3	64.5	46.9	79.6	43.1	71.3	92.8	94.4
地域別	首都圏	1345	91.4	90.3	83.0	86.6	78.3	63.3	60.4	69.3	47.3	75.0	48.3	68.0	87.9	89.1
	近畿圏	655	88.7	88.7	85.5	84.6	78.2	60.3	56.9	67.2	49.3	77.7	50.8	68.2	84.6	88.4
健康状態別	健康層	1383	90.2	89.9	83.9	86.0	78.0	62.8	60.7	69.8	49.7	76.6	50.3	69.0	86.6	88.4
	不健康層	617	91.1	89.5	83.6	85.7	78.8	61.4	56.1	65.8	44.1	74.4	46.5	66.0	87.2	90.0
受診経験別	受診経験なし層	588	81.5	82.0	78.1	76.5	73.5	57.0	57.0	65.0	46.9	68.7	45.1	61.9	79.3	79.6
	受診経験層	1410	94.3	93.1	86.3	90.0	80.3	64.7	60.4	70.2	48.4	78.9	50.9	70.7	90.1	92.8
	入院経験層	141	95.7	93.6	83.0	92.2	82.3	62.4	60.3	75.2	61.0	84.4	53.9	71.6	93.6	92.2
副作用経験別	副作用経験層	590	92.9	92.5	86.3	89.2	81.0	66.3	61.4	70.8	49.3	77.6	53.2	71.0	88.3	91.9
	副作用未経験層	1410	89.5	88.6	82.8	84.6	77.1	60.7	58.4	67.7	47.4	75.2	47.4	66.8	86.2	87.6

注1） %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

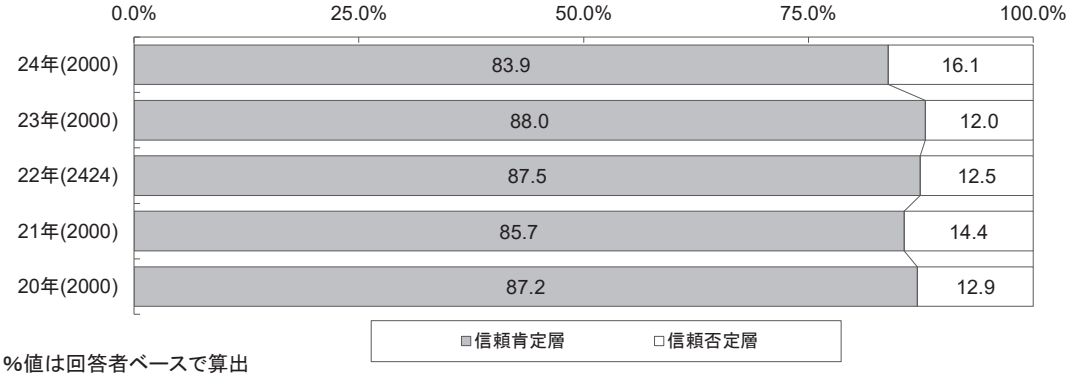
注2）「肯定層」＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

（2） 製薬産業に対する信頼感 ［ 問11 ］

製薬産業を「信頼できる」との評価は全体の84%

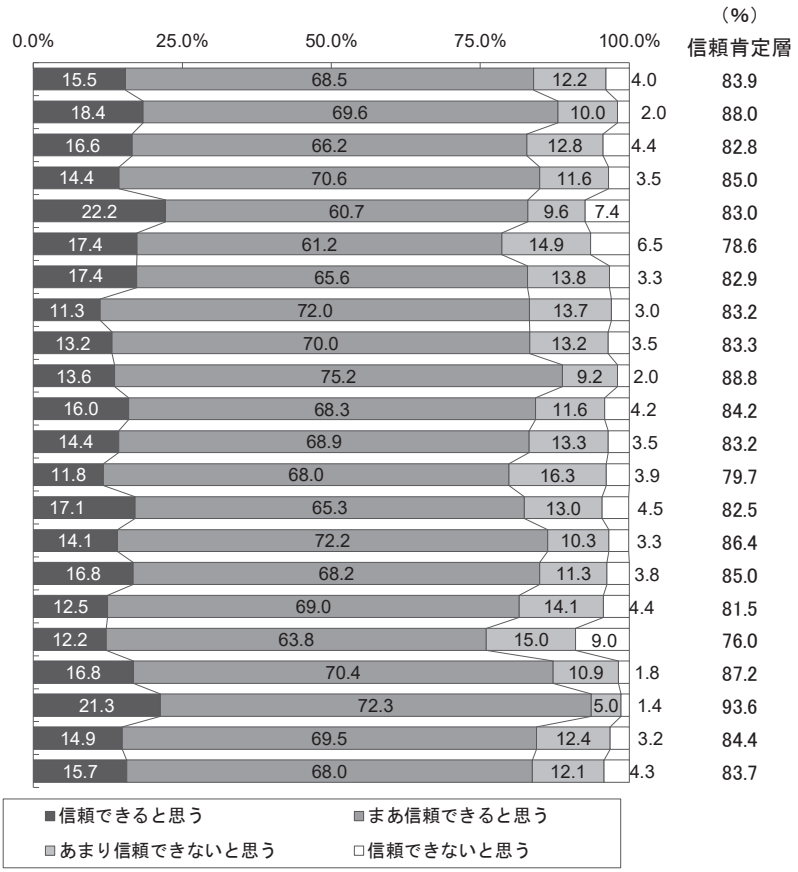
■ 総合的にみて、製薬産業に対し「信頼できると思う」と「まあ信頼できると思う」を合計した信頼肯定層は83.9%で、前回より4.1ポイントの減少。
■ 性別にみても信頼肯定層の割合に男女差はほとんどない。年代別では30代がやや低く、70代以上はやや高い。
■ 健康状態別では健康層の方が肯定層がやや多い。受診経験別では経験なし層が最も低く、受診経験層、入院経験層と上昇する。経験なし層と入院経験層では17.6ポイントの差が生じている。

図表29. 製薬産業に対する信頼感 （全体/24年/23年/22年/21年/20年）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 「信頼肯定層」＝「信頼できると思う」「まあ信頼できると思う」の合計比率
「信頼否定層」＝「あまり信頼できないと思う」「信頼できないと思う」の合計比率

図表30. 製薬産業に対する信頼感 （全体/属性別）



		調査数	信頼できると思う	まあ信頼できると思う	あまり信頼できないと思う	信頼できないと思う	信頼肯定層
全体	24年	2000	15.5	68.5	12.2	4.0	83.9
	23年	2000	18.4	69.6	10.0	2.0	88.0
性別	男	970	16.6	66.2	12.8	4.4	82.8
	女	1030	14.4	70.6	11.6	3.5	85.0
年代別	20代	270	22.2	60.7	9.6	7.4	83.0
	30代	276	17.4	61.2	14.9	6.5	78.6
	40代	334	17.4	65.6	13.8	3.3	82.9
	50代	364	11.3	72.0	13.7	3.0	83.2
	60代	257	13.2	70.0	13.2	3.5	83.3
	70代以上	499	13.6	75.2	9.2	2.0	88.8
地域別	首都圏	1345	16.0	68.3	11.6	4.2	84.2
	近畿圏	655	14.4	68.9	13.3	3.5	83.2
職業別	自営業・家族従業員層	153	11.8	68.0	16.3	3.9	79.7
	勤め人層	1004	17.1	65.3	13.0	4.5	82.5
	その他層	843	14.1	72.2	10.3	3.3	86.4
健康状態別	健康層	1383	16.8	68.2	11.3	3.8	85.0
	不健康層	617	12.5	69.0	14.1	4.4	81.5
受診経験別	受診経験なし層	588	12.2	63.8	15.0	9.0	76.0
	受診経験層	1410	16.8	70.4	10.9	1.8	87.2
	入院経験層	141	21.3	72.3	5.0	1.4	93.6
副作用経験別	副作用経験層	590	14.9	69.5	12.4	3.2	84.4
	副作用未経験層	1410	15.7	68.0	12.1	4.3	83.7

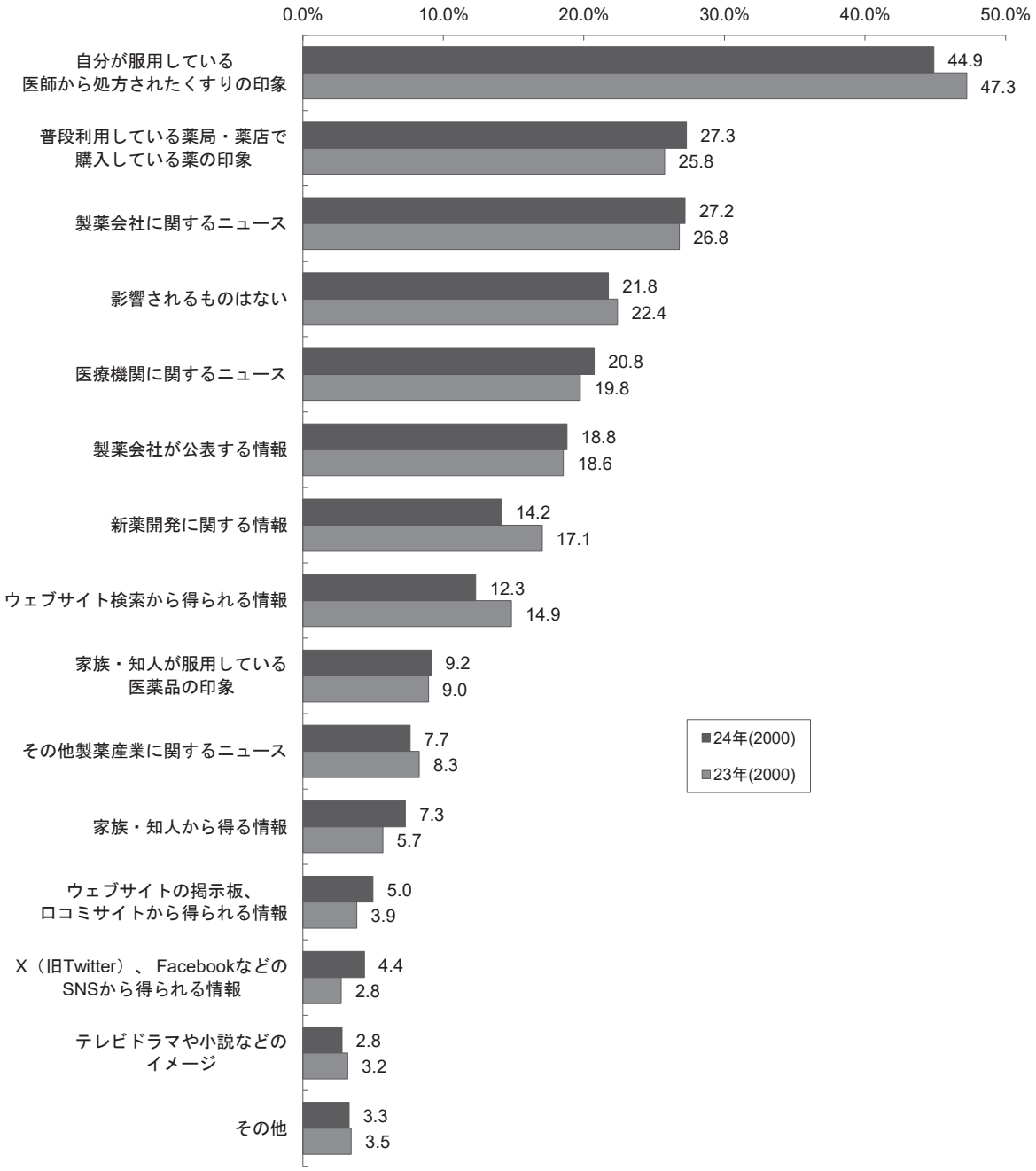
注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 「信頼肯定層」＝「信頼できると思う」「まあ信頼できると思う」の合計比率

（3） 製薬産業に対する信頼感に影響を与える外的要因 ［ 問11－1 ］

製薬産業に対する信頼感に最も影響しているのは「医師から処方されたくすりの印象」

■ 製薬産業に対する信頼感についてどのようなことが影響して判断していると思うかを尋ねた。
■ 「自分が服用している医師から処方されたくすりの印象」が44.9%で群を抜いて多い。以降は15ポイント以上の差があって「普段利用している薬局・薬店で購入しているくすりの印象」「製薬会社に関するニュース」が約27%のほぼ同スコアで続く。また、22.4%は「影響されるものはない」としている。
■ 前回と比べてもスコアや順位にはほとんど変化はない。変動幅が最も大きい項目でも「新薬開発に関する情報」の2.9ポイント減である。

図表31. 製薬産業に対する信頼感に影響を与える外的要因 （全体/24年/23年） 【複数回答】



注） %値は回答者ベースで算出

■ 性別にみると「自分が服用している医師から処方されたくすりの印象」と「普段利用している薬局・薬店で購入しているくすりの印象」は女性の方が高く、「影響されるものはない」は男性の方がやや高くなっている。
■ 年代別でみると「製薬会社に関するニュース」と「医療機関に関するニュース」は高年層ほどスコアが上昇する傾向がある。一方で「影響されるものはない」はその反対となっている。特に20代は「影響されるものはない」が32.2%と他年代より目立って高い。
■ 「自分が服用している医師から処方されたくすりの印象」は、健康層より不健康層、受診経験なし層より通院経験層、受診経験層より入院経験層、副作用未経験層より経験層の方が大幅に高い。また、副作用経験層は「影響されるものはない」を除く全項目が副作用未経験層より高いスコアとなっている。

図表32. 製薬産業に対する信頼感に影響を与える外的要因（全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	自分が服用している医師から処方されたくすりの印象	普段利用している薬局・薬店で購入しているくすりの印象	製薬会社に関するニュース	影響されるものはない	医療機関に関するニュース	製薬会社が公表する情報	新薬開発に関する情報	ウェブサイト検索から得られる情報	家族・知人が服用している医薬品の印象	その他製薬産業に関するニュース	家族・知人から得る情報	ウェブサイトの掲示板、口コミサイトから得られる情報	X（旧Twitter）、Facebookなどの SNSから得られる情報	テレビドラマや小説などのイメージ	その他
全体	24年	2000	44.9	27.3	27.2	21.8	20.8	18.8	14.2	12.3	9.2	7.7	7.3	5.0	4.4	2.8	3.3
	23年	2000	47.3	25.8	26.8	22.4	19.8	18.6	17.1	14.9	9.0	8.3	5.7	3.9	2.8	3.2	3.5
性別	男	970	39.8	23.4	28.0	24.6	20.4	18.7	13.7	11.3	9.5	7.5	6.5	5.2	4.6	2.6	4.2
	女	1030	49.7	31.0	26.4	19.0	21.1	18.9	14.6	13.2	8.8	7.8	8.1	4.9	4.2	3.0	2.4
年代別	20代	270	38.9	25.2	11.9	32.2	14.4	14.4	8.1	8.5	11.5	5.9	9.3	7.4	10.4	1.1	4.4
	30代	276	50.7	30.4	24.6	21.7	17.4	25.0	14.1	9.8	10.5	5.1	7.6	5.4	7.6	1.8	2.9
	40代	334	41.9	28.7	23.4	24.3	20.1	15.3	10.5	13.8	12.3	3.9	6.6	5.7	3.9	2.4	3.6
	50代	364	43.1	23.9	28.6	23.4	20.9	20.6	16.5	12.9	8.2	9.3	8.0	4.9	3.3	3.3	3.6
	60代	257	41.6	25.3	37.7	18.7	26.1	19.8	17.1	13.6	6.2	8.2	3.9	3.1	2.7	3.9	2.7
	70代以上	499	49.9	29.3	33.1	14.8	23.6	18.2	16.6	13.6	7.2	11.0	7.8	4.0	1.4	3.6	2.8
地域別	首都圏	1345	44.9	28.0	27.7	20.7	21.3	19.2	14.5	12.6	9.1	7.4	7.4	5.4	4.7	2.7	3.3
	近畿圏	655	44.9	26.0	26.1	23.8	19.5	18.0	13.4	11.6	9.2	8.1	7.2	4.3	3.8	3.1	3.2
健康状態別	健康層	1383	41.7	26.4	24.9	23.7	20.3	18.0	14.5	11.1	9.5	6.7	6.8	4.3	4.0	2.2	2.8
	不健康層	617	52.0	29.3	32.4	17.3	21.7	20.6	13.5	14.9	8.4	9.9	8.4	6.6	5.2	4.2	4.4
受診経験別	受診経験なし層	588	25.9	18.4	21.8	35.0	17.2	14.8	10.7	10.4	6.8	7.3	7.1	4.3	3.4	2.0	5.3
	受診経験層	1410	52.8	31.1	29.5	16.2	22.3	20.4	15.6	13.1	10.1	7.8	7.4	5.3	4.8	3.1	2.5
	入院経験層	141	62.4	27.0	24.8	9.9	29.8	23.4	12.1	12.8	10.6	7.8	7.8	5.7	9.2	5.0	2.1
副作用経験別	副作用経験層	590	57.8	34.6	31.0	11.4	25.3	24.7	16.3	14.7	14.7	9.5	10.2	8.0	7.6	3.1	2.4
	副作用未経験層	1410	39.5	24.3	25.6	26.1	18.9	16.3	13.3	11.3	6.8	6.9	6.1	3.8	3.0	2.7	3.7

注） %値は回答者ベースで算出

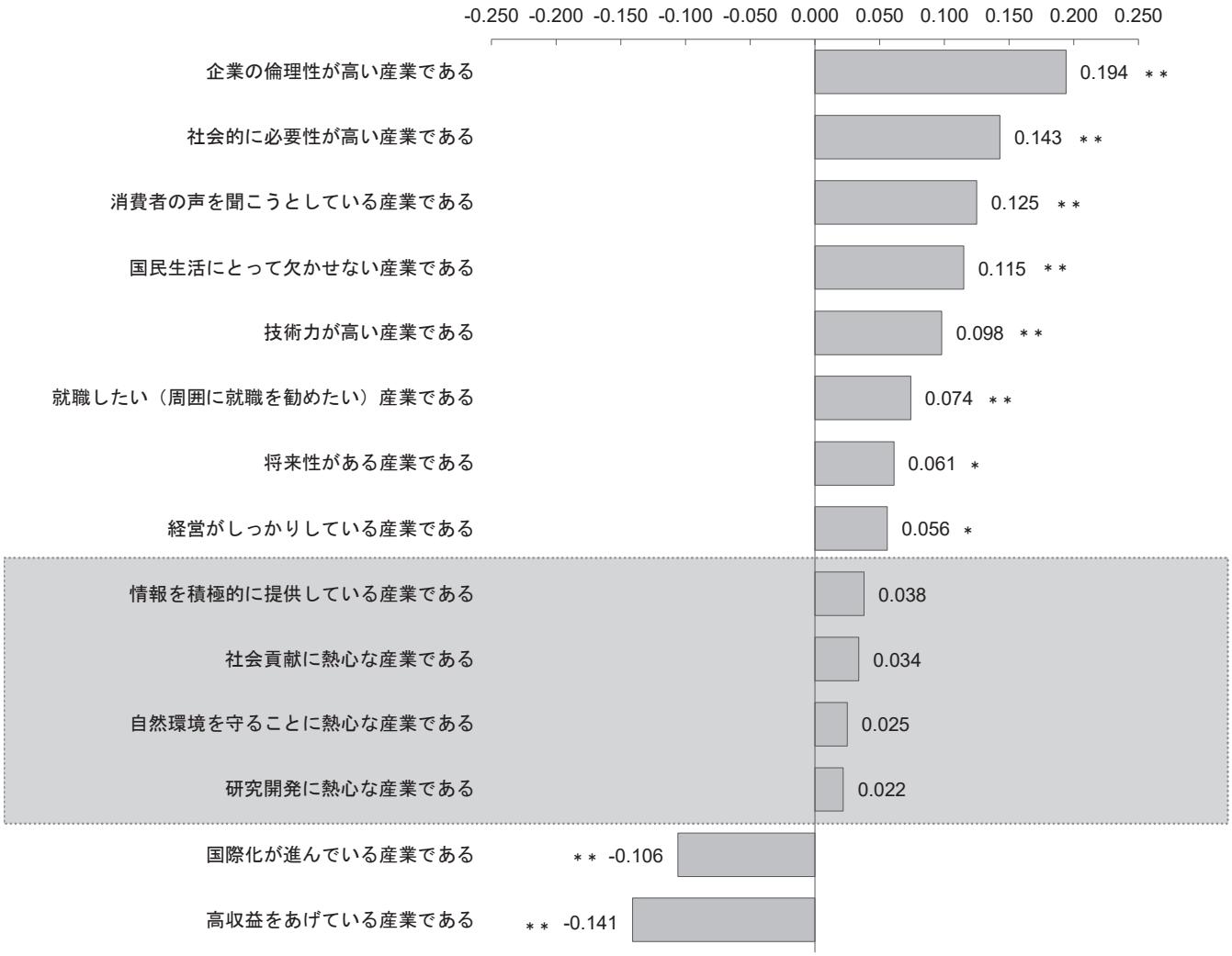
※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

（4） 重回帰分析による製薬産業の信頼感形成要因分析 ［ 問10、問11 ］

企業としての倫理性と社会的必要性が信頼感形成に強く影響

- 製薬産業に対する「信頼感」がどのような要因に影響を受けているかをみるために、重回帰分析を行った。用いた項目は図表33の通りである。
- 信頼感にプラスの影響を与えている要因は「企業の倫理性が高い産業である」である。次点で「社会的に必要性が高い産業である」「消費者の声を聞こうとしている産業」「国民生活にとって欠かせない産業」が続く。
- 一方、最もマイナスの影響を与えているのは「高収益をあげている産業である」である。また「国際化が進んでいる産業である」もマイナス要因となっている。

図表33. 重回帰分析による製薬産業の信頼形成要因



N=2000　　＊＊:1%水準で有意
＊:5%水準で有意

注） 図表33で、標準偏回帰係数の棒グラフ横につけられた＊印（アスタリスク）は、標準偏回帰係数の有意性検定の結果であって、その変数単独の寄与が母集団においても0ではないと、一定の確率で推論されたことを表している。＊＊は危険率1%、＊は危険率5%の確率での検定の結果で有意差があったことを示している。枠線網掛け内の各項目は有意差がみとめられなかった。

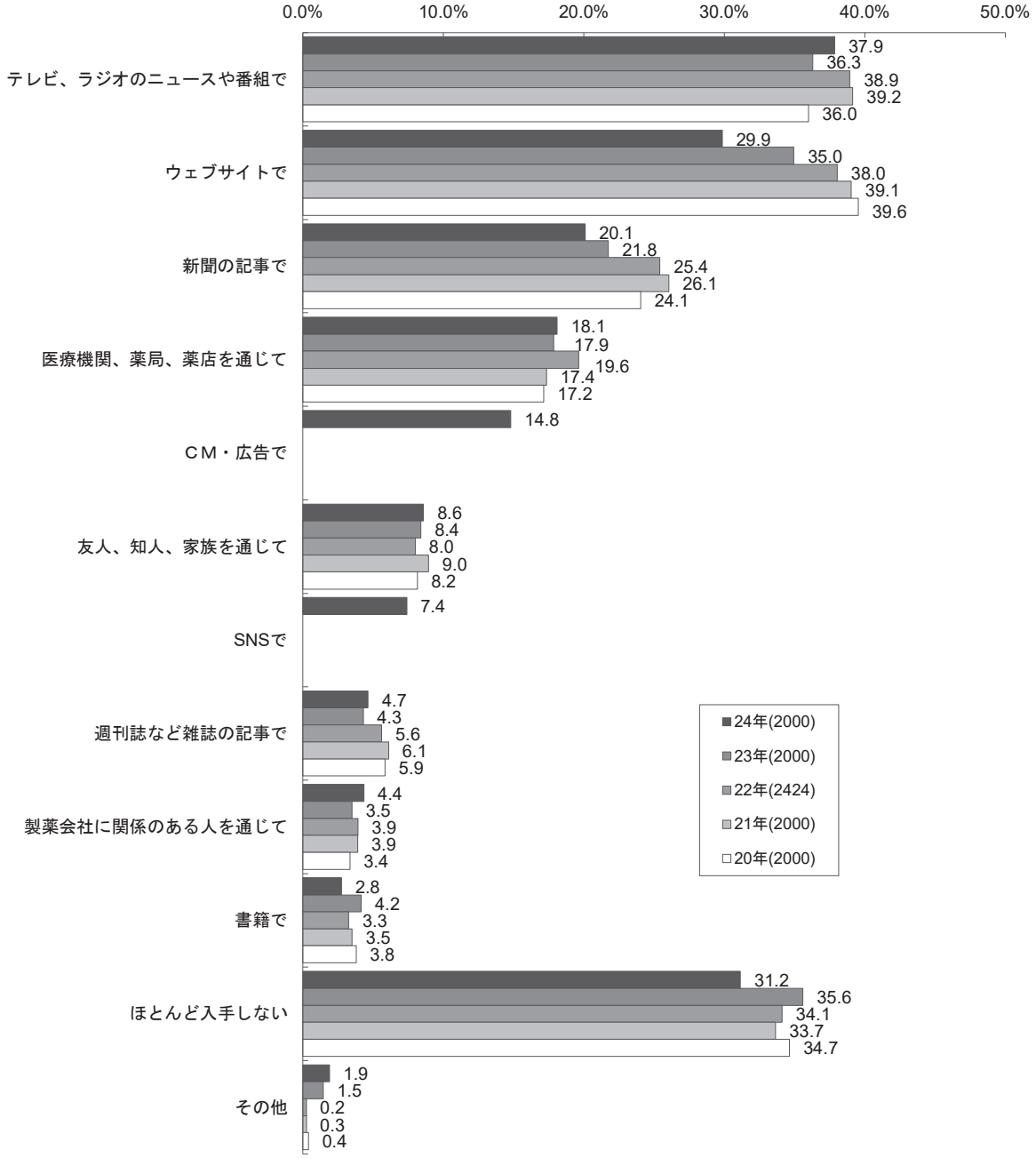
2　製薬産業や製薬会社の認知意向

（1） 製薬産業や製薬会社を知るための情報源 ［ 問12 ］

主な情報源は「テレビ、ラジオのニュースや番組」、「ウェブサイト」

- ■ 製薬産業や製薬会社についての情報源は「テレビ、ラジオのニュースや番組で」37.9%が際立って高く、「ウェブサイトで」29.9%、「新聞の記事で」20.1%と続く。31.2%は「ほとんど入手しない」としている。
- ■ 前回と比べても大きな変化はないが「ウェブサイトで」は5.1%のマイナスでやや減少が大きい。
- ■ 24年から聴取している「CM・広告で」は14.8%、「SNSで」は7.4%となっている。

図表34. 製薬産業や製薬会社を知るための情報源 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注1） %値は回答者ベースで算出

注2） 24年調査より「CM・広告で」「SNSで」を追加

■ 性別にみてもその差は僅かで、差は大きくとも3ポイント程度にとどまる。
■ 年代別でみると、ほとんどの項目（特に上位から中位の項目）で高年代ほどスコアが高くなる傾向があり、特に60代以上で際立っている。その反面で「ほとんど入手しない」割合は低年代ほど高く、20代では44.8%、30代でも39.1%で、各情報源のスコアを大きく上回っている。24年から聴取している「SNSで」は20代と30代が突出して高い。
■ 大半の項目で健康状態別では不健康層、受診経験別では入院経験層、副作用経験別では副作用経験層のスコアが高くなっている。なお、受診経験なし層では「ほとんど入手しない」が46.6%と半数近くを占めている。

図表35. 製薬産業や製薬会社を知るための情報源 （全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	テレビ、ラジオのニュースや番組で	ウェブサイトで	新聞の記事で	医療機関、薬局、薬店を通じて	CM・広告で	友人、知人、家族を通じて	SNSで	週刊誌など雑誌の記事で	製薬会社に関係のある人を通じて	書籍で	ほとんど入手しない	その他
全体	24年	2000	37.9	29.9	20.1	18.1	14.8	8.6	7.4	4.7	4.4	2.8	31.2	1.9
	23年	2000	36.3	35.0	21.8	17.9	－	8.4	－	4.3	3.5	4.2	35.6	1.5
性別	男	970	36.3	31.2	21.9	16.7	14.9	7.8	6.7	6.6	4.8	3.9	31.5	2.5
	女	1030	39.3	28.5	18.4	19.4	14.7	9.3	8.1	2.8	3.9	1.7	30.8	1.4
年代別	20代	270	17.8	19.3	5.6	13.3	14.4	10.0	13.0	4.8	7.0	1.9	44.8	3.3
	30代	276	28.3	31.2	10.5	15.2	14.9	7.2	14.1	3.6	4.7	3.6	39.1	1.4
	40代	334	32.6	27.2	12.0	11.1	15.3	9.6	6.3	4.2	4.2	2.7	37.1	1.5
	50代	364	36.5	31.6	17.6	14.3	15.7	7.1	7.7	6.9	4.7	2.7	30.8	1.9
	60代	257	43.6	33.9	24.1	19.1	14.0	5.8	3.5	3.5	3.5	3.1	26.8	0.8
	70代以上	499	55.5	33.3	38.5	29.3	14.4	10.4	3.2	4.4	3.0	2.6	17.8	2.2
地域別	首都圏	1345	38.7	31.8	19.6	18.8	15.0	8.3	7.4	5.1	4.0	2.8	29.7	1.6
	近畿圏	655	36.0	25.8	21.2	16.6	14.4	9.3	7.5	3.8	5.0	2.6	34.0	2.4
健康状態別	健康層	1383	36.7	27.6	20.9	15.9	14.7	7.7	7.2	4.5	4.8	2.8	32.2	1.5
	不健康層	617	40.5	34.8	18.3	23.0	15.1	10.5	7.8	5.0	3.2	2.6	28.7	2.8
受診経験別	受診経験なし層	588	25.7	21.8	10.7	8.7	10.0	6.0	8.0	1.7	2.7	2.2	46.6	3.2
	受診経験層	1410	43.0	33.3	24.0	22.1	16.7	9.7	7.1	5.9	5.0	3.0	24.8	1.3
	入院経験層	141	46.1	33.3	24.1	31.2	21.3	10.6	10.6	9.9	9.2	4.3	19.9	2.8
副作用経験別	副作用経験層	590	41.5	38.3	20.5	23.7	19.0	11.9	10.5	8.3	7.6	4.6	21.5	1.9
	副作用未経験層	1410	36.3	26.3	19.9	15.7	13.0	7.2	6.1	3.1	3.0	2.0	35.2	1.9

注） %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

（2） 処方されたくすりのメーカー名の認知意向［ 問13 ］

処方薬のメーカー名を「知りたいと思った」のは全体の58％

■ 処方されたくすりのメーカー名を「知りたいと思った」のは全体の57.9％で、23年から2.2ポイントの微増。
■ 性別でみると「知りたいと思った」の割合は女性の方が高い。
■ 年代別では、高年層ほど「知りたいと思った」が増える。70代以上では72.5％で、最も低い20代のほぼ2倍のスコアである。
■ 健康状態別では意向率の差はほとんどないが、受診経験別では受診経験なし層の43.2％に対し受診経験層は64.0％、入院経験層では68.6％と明らかな差がある。副作用経験別でも、副作用未経験層は52.8％に対し経験層は70.0％で、20ポイント近い差がある。

図表36. 処方されたくすりのメーカー名の認知意向 （全体/属性別/要因別）

		調査数	知りたいと思った	思わなかった
全体	24年	2000	57.9	42.2
	23年	2000	55.7	44.4
	22年	2424	57.5	42.5
	21年	1729	34.9	65.1
	20年	1742	30.3	69.7
性別	男	970	53.6	46.4
	女	1030	61.8	38.2
年代別	20代	270	37.4	62.6
	30代	276	51.8	48.2
	40代	334	51.8	48.2
	50代	364	58.8	41.2
	60代	257	63.8	36.2
	70代以上	499	72.5	27.5
地域別	首都圏	1345	58.7	41.3
	近畿圏	655	56.0	44.0
健康状態別	健康層	1383	56.9	43.1
	不健康層	617	60.0	40.0
受診経験別	受診経験なし層	588	43.2	56.8
	受診経験層	1410	64.0	36.0
	入院経験層	141	68.8	31.2
副作用経験別	副作用経験層	590	70.0	30.0
	副作用未経験層	1410	52.8	47.2

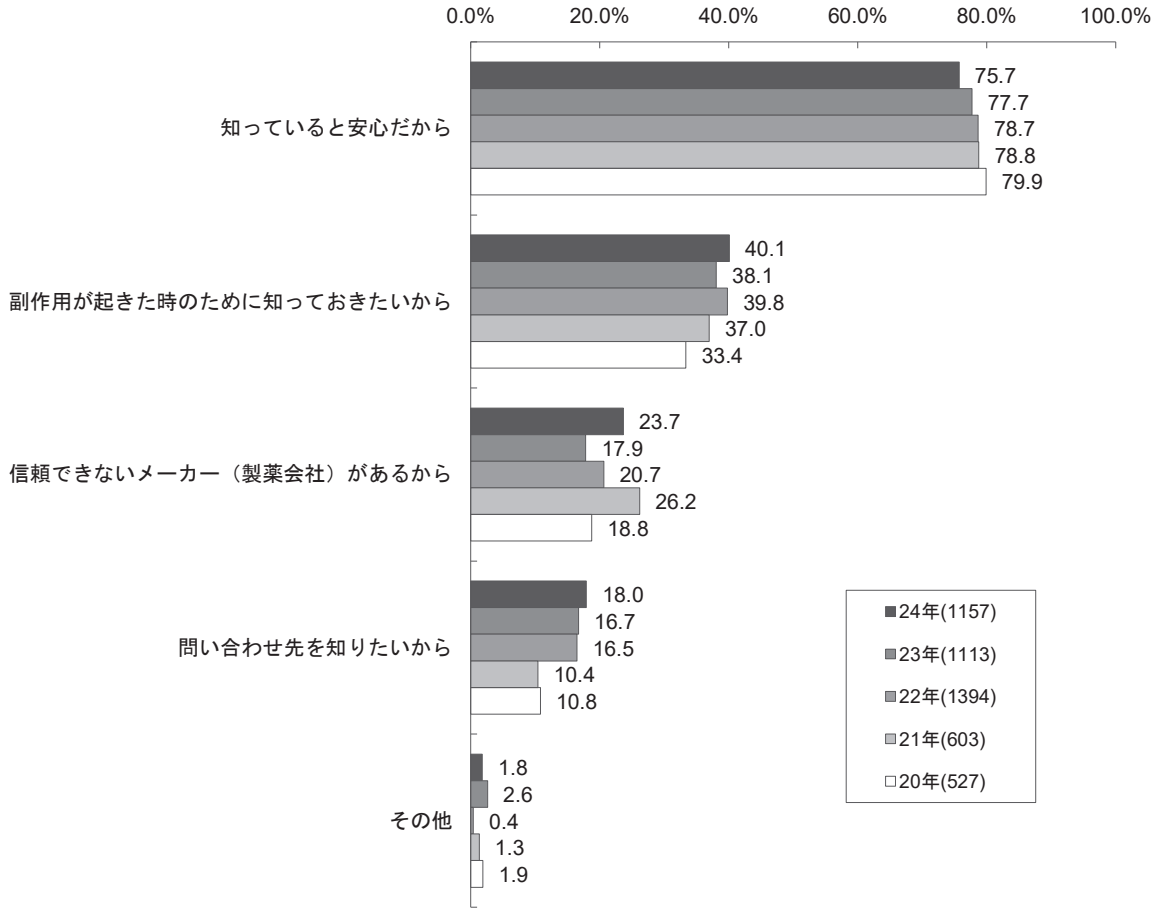
注） %値は回答者ベースで算出

（3） 処方されたくすりのメーカー名を知りたいと思った理由 ［ 問13-1 ］

処方薬のメーカー名を知りたい理由は「知っていると安心だから」76%

■ 処方されたくすりのメーカー名を知りたいと思った人の理由は「知っていると安心だから」が75.7%で圧倒的に多い。以下、「副作用が起きた時のために知っておきたいから」40.1%、「信頼できないメーカー(製薬会社)があるから」23.7%、「問い合わせ先を知りたいから」18.0%と続く。
■ 前回と比べても、スコアにも順位にも、ほとんど変動はない。

図表37. 知りたいと思った理由 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



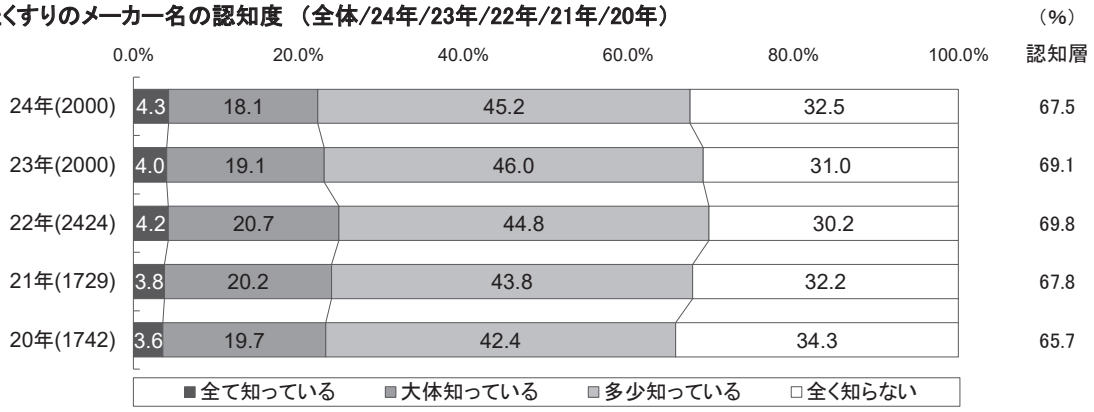
注） %値は回答者ベースで算出

（4） 処方されたくすりのメーカー名の認知度［ 問14 ］

処方薬のメーカー名を知っている割合は68％

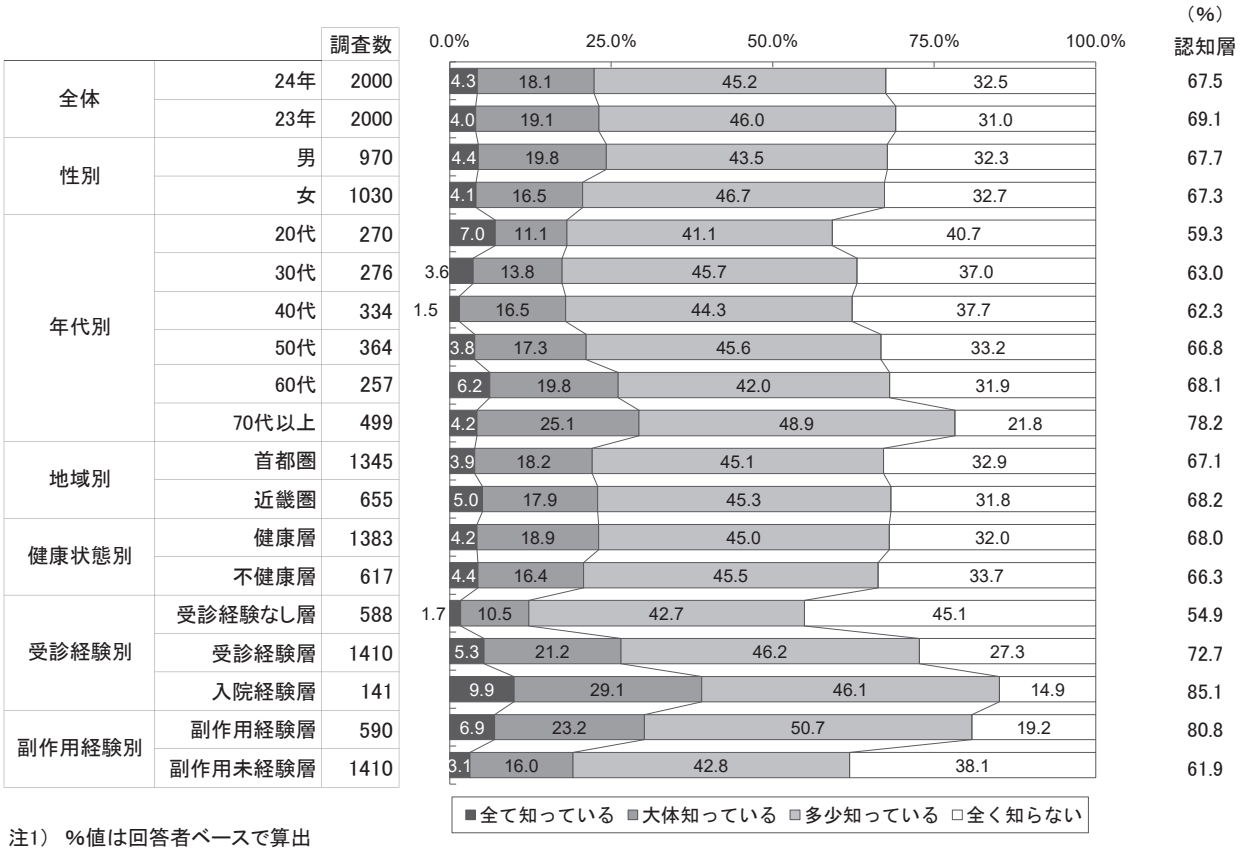
■ 処方されたくすりのメーカー名を「全て知っている」のは4.3％、「大体知っている」は18.1％である。
「多少知っている」は45.2％で、これら３層を合計した認知層は67.5％となり、23年から1.6ポイントの微減。
■ 属性別に認知層の割合をみると、性別ではほぼ差はない。年代別では年代とともに認知率が上昇する傾向があり、70代以上は78.2％で、最も低い20代の59.3％とは20ポイント近い差がある。
■ 健康状態別では認知率にほとんど差がないが、受診経験別では受診・入院経験層、副作用経験別では経験層が明らかに高い。

図表38. 処方されたくすりのメーカー名の認知度 （全体/24年/23年/22年/21年/20年）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 「認知層」＝「全て知っている」「大体知っている」「多少知っている」の合計比率

図表39. 処方されたくすりのメーカー名の認知度 （全体/属性別）



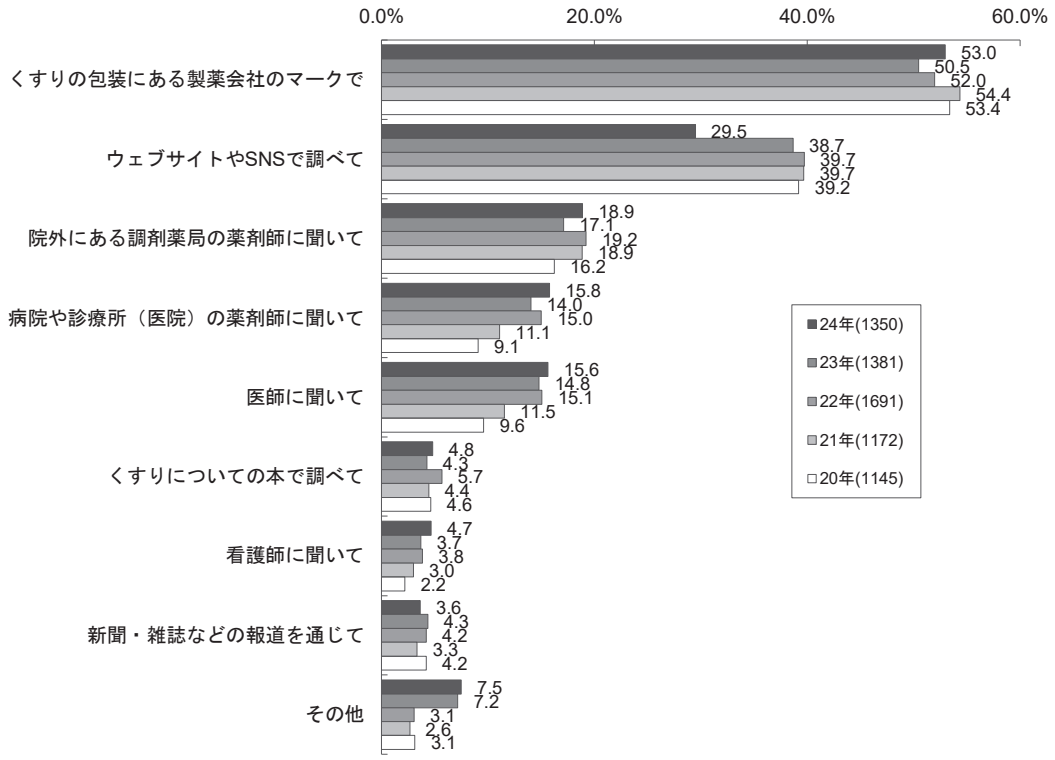
注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 「認知層」＝「全て知っている」「大体知っている」「多少知っている」の合計比率

（5） 処方されたくすりのメーカー名の認知経路［ 問14-1 ］

メーカー名認知経路は「くすりの包装にある製薬会社のマークで」53％が最多

■ 処方されたくすりのメーカー名の認知経路は「くすりの包装にある製薬会社のマークで」53.0％が最も高い。
次点は「ウェブサイトやSNSで調べて」29.5％が続く。医師や薬剤師が介在する「院外にある調剤薬局の薬剤師に聞いて」「病院や診療所の薬剤師に聞いて」「医師に聞いて」の３経路はいずれも10％台後半にとどまっている。
■ 23年と比べても、スコアも順位にも大きな変化はみられないが、「ウェブサイトやSNSで調べて」は9.2ポイント低下している（ただし、前回の選択肢は「インターネットで調べて」である）。
■ 認知経路を、問14の認知度合別に比べると、大半の経路で高認知層の方がスコアが高い。

図表40. 処方されたくすりのメーカー名の認知経路 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注） %値は回答者ベースで算出

図表41. 処方されたくすりのメーカー名の認知経路 （認知度別/24年） 【複数回答】 （単位：%）

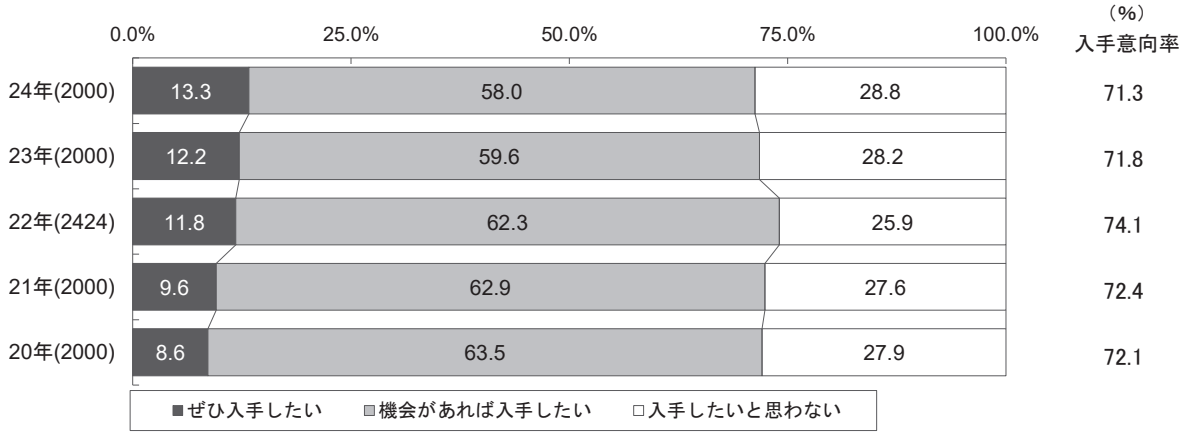
認知経路	高認知層(447)	認知層(1350)
くすりの包装にある製薬会社のマークで	52.8	53.0
ウェブサイトやSNSで調べて	30.0	29.5
院外にある調剤薬局の薬剤師に聞いて	27.3	18.9
医師に聞いて	21.3	15.6
病院や診療所（医院）の薬剤師に聞いて	20.1	15.8
看護師に聞いて	9.4	4.7
くすりについての本で調べて	7.4	4.8
新聞・雑誌などの報道を通じて	4.7	3.6
その他	5.4	7.5

（6） 製薬会社からの情報入手意向 ［ 問15 ］

製薬会社からの情報入手意向は71％

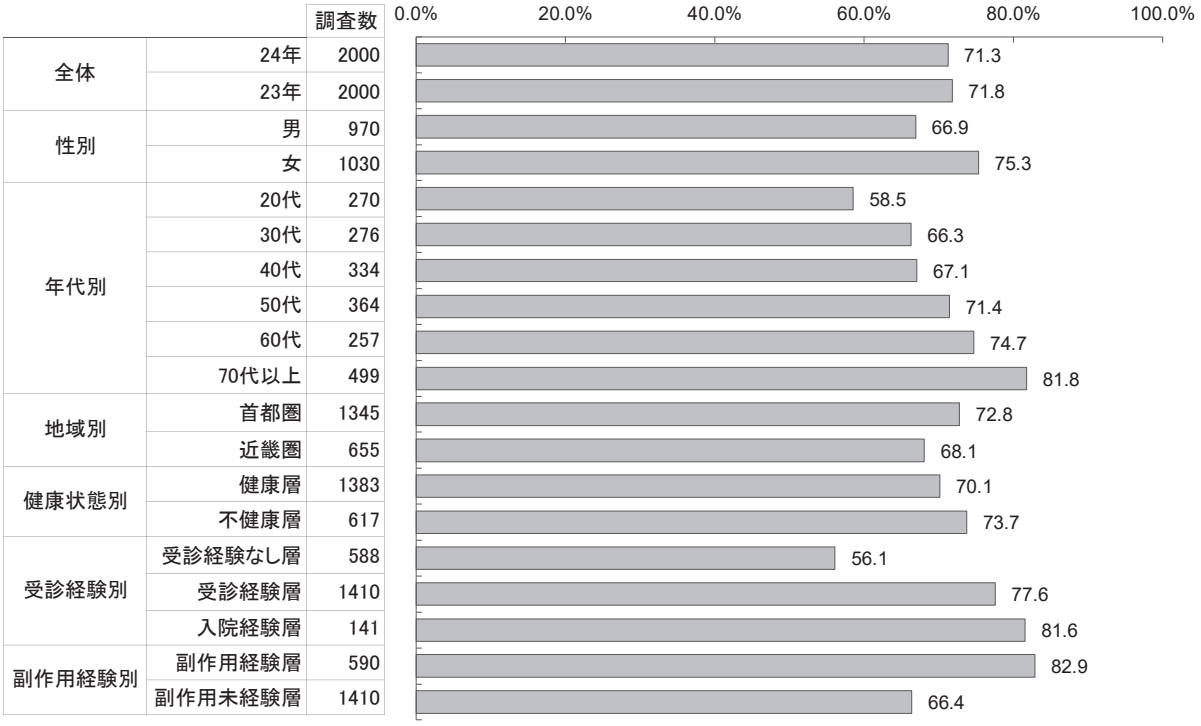
■ 製薬会社からくすりや製薬産業に関する情報を入手したいとの意向は、「ぜひ入手したい」13.3％、「機会があれば入手したい」58.0％。この２層を合計した入手意向率は71.3％で23年とほぼ変わらない。
■ 属性別に意向率をみると、性別では女性が75.3％で男性より8.4ポイント高い。年代別では高年層ほど高く、20代の意向率は58.5％だが、50代で70％を超え、70代以上では81.8％に達する。
■ 健康状態別では、健康層より不健康層の方が僅かに高い。
■ 受診経験別では入院経験層と受診経験層、副作用経験別では副作用経験層の意向率が他層より格段に高い。

図表42. 製薬会社からの情報入手意向 （全体/24年/23年/22年/21年/20年）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2）「入手意向率」=「ぜひ入手したい」「機会があれば入手したい」の合計比率

図表43. 製薬会社からの情報入手意向 （全体/属性別/要因別）



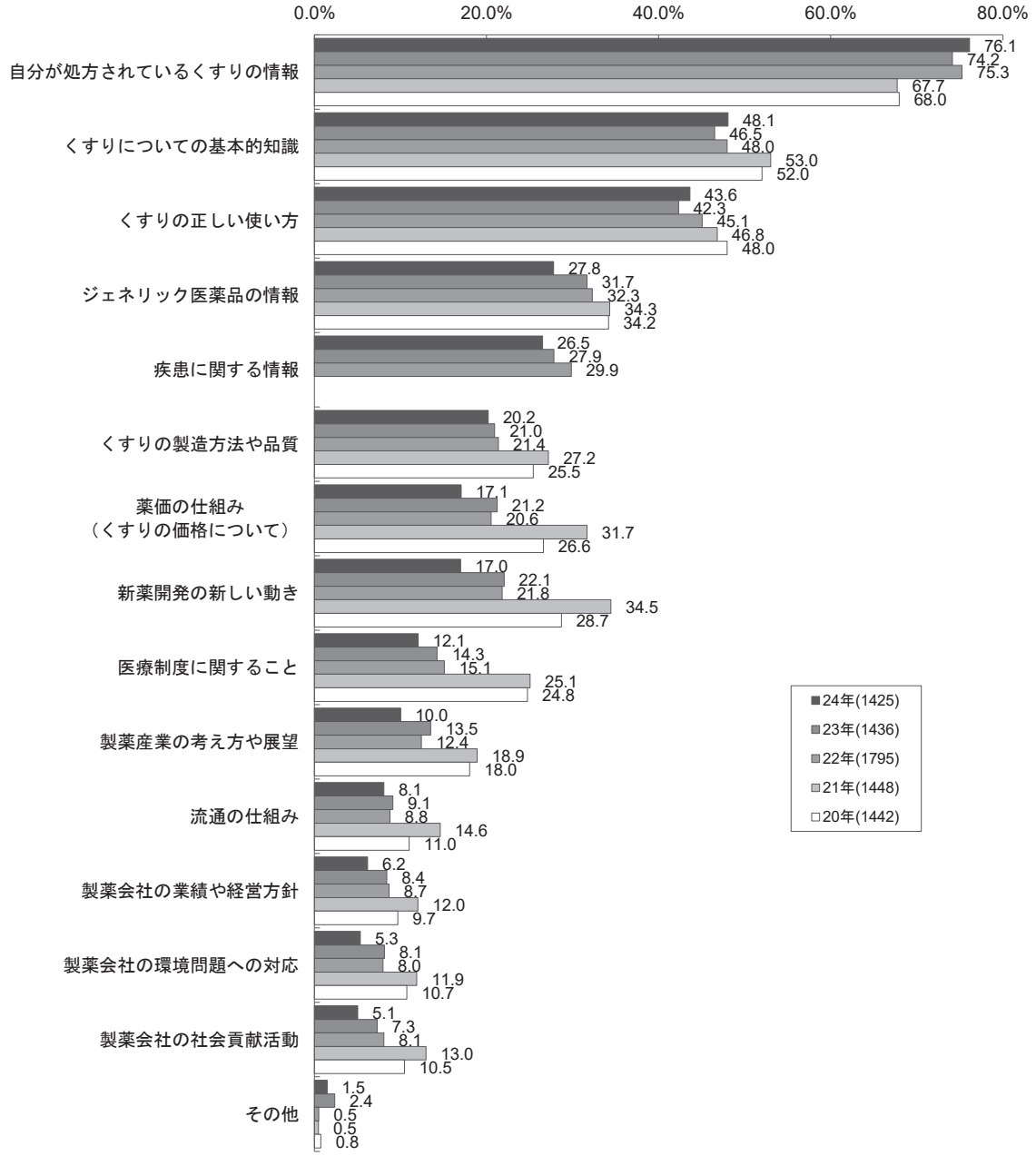
注1） %値は回答者ベースで算出
注2）「入手意向率」=「ぜひ入手したい」「機会があれば入手したい」の合計比率

（7） 製薬会社から入手したい情報［ 問15－1 ］

「処方されているくすりの情報」が76%で突出して高い

■ 情報入手意向者が製薬会社から入手したい情報としては「自分が処方されているくすりの情報」が76.1%で圧倒的である。続いて「くすりについての基本的知識」48.1%、「くすりの正しい使い方」43.6%、「ジェネリック医薬品の情報」27.8%が挙がる。
■ 23年調査と比べると、上位3項目は増加、4位以下は減少しているが、いずれも変動幅は数ポイント程度と僅かである。

図表44. 製薬会社から入手したい情報 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注） %値は回答者ベースで算出

■ 性別では各項目のスコアは概ね僅差だが、「自分が処方されているくすりの情報」は女性の方が7.6ポイント高い。
■ 年代別でみると、上位の項目は各年代ほぼ共通だが、20代と30代では「くすりについての基本的知識」と「くすりの正しい使い方」、60代と70代以上では「ジェネリック医薬品の情報」が特に高い。
■ 健康状態別では、不健康層は大部分の情報で健康層より高い。特に「ジェネリック医薬品の情報」と「疾患に関する情報」「自分が処方されているくすりの情報」はやや差が大きい。
■ 受診経験別では、入院経験層は「自分が処方されているくすりの情報」と「くすりの製造方法や品質」以外は他層より高いスコアになっている。
■ 副作用経験別では、「くすりに関する基本的知識」を除く全項目で経験層が未経験層を上回るが、「疾患に関する情報」は差が10.1ポイントと特に大きい。

図表45. 製薬会社から入手したい情報 （全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	自分が処方されているくすりの情報	くすりについての基本的知識	くすりの正しい使い方	ジェネリック医薬品の情報	疾患に関する情報	くすりの製造方法や品質	薬価の仕組み（薬の価格について）	新薬開発の新しい動き	医療制度に関すること	製薬産業の考え方や展望	流通の仕組み	製薬会社の業績や経営方針	製薬会社の環境問題への対応	製薬会社の社会貢献活動	その他
全体	24年	1425	76.1	48.1	43.6	27.8	26.5	20.2	17.1	17.0	12.1	10.0	8.1	6.2	5.3	5.1	1.5
	23年	1436	74.2	46.5	42.3	31.7	27.9	21.0	21.2	22.1	14.3	13.5	9.1	8.4	8.1	7.3	2.4
性別	男	649	72.0	47.3	42.4	25.6	23.9	19.7	16.8	18.2	10.9	10.2	8.5	6.9	2.9	3.4	1.5
	女	776	79.6	48.7	44.7	29.6	28.7	20.6	17.3	16.0	13.0	9.9	7.7	5.5	7.3	6.4	1.4
年代別	20代	158	67.7	51.9	43.7	27.2	24.7	24.1	14.6	15.8	15.2	6.3	10.1	3.8	2.5	3.8	0.6
	30代	183	75.4	55.2	51.4	16.4	22.4	22.4	18.0	17.5	14.2	10.4	8.7	8.7	4.9	4.9	1.6
	40代	224	74.6	52.2	51.8	18.8	20.1	22.3	17.4	17.9	12.5	12.9	11.2	5.8	4.0	4.5	0.4
	50代	260	80.0	46.2	37.7	25.4	27.7	20.0	19.2	15.4	8.8	9.2	6.9	9.2	6.2	4.6	1.5
	60代	192	75.5	44.3	43.8	32.8	26.6	19.8	19.3	16.1	10.9	9.4	8.3	5.2	4.2	5.2	2.1
	70代以上	408	78.4	44.1	39.5	37.3	31.9	16.9	15.0	18.1	12.3	10.5	5.9	4.7	7.4	6.1	2.0
地域別	首都圏	979	76.4	48.4	43.3	28.9	26.0	21.5	18.1	18.9	12.6	10.9	9.4	6.8	5.7	5.3	1.0
	近畿圏	446	75.6	47.3	44.4	25.3	27.6	17.5	14.8	12.8	11.0	8.1	5.2	4.7	4.5	4.5	2.5
健康状態別	健康層	970	73.4	48.4	43.7	24.7	23.5	19.1	14.8	16.4	10.2	9.5	7.5	5.8	4.3	4.2	1.8
	不健康層	455	82.0	47.5	43.5	34.3	33.0	22.6	21.8	18.2	16.0	11.2	9.2	7.0	7.5	6.8	0.9
受診経験別	受診経験なし層	330	69.7	48.2	43.3	21.8	23.9	21.8	16.7	15.8	10.9	9.1	7.9	5.5	5.5	4.5	2.7
	受診経験層	1094	78.2	48.1	43.8	29.6	27.3	19.7	17.2	17.4	12.4	10.3	8.1	6.4	5.3	5.2	1.0
	入院経験層	115	73.9	53.0	50.4	30.4	33.9	20.9	18.3	20.0	19.1	14.8	9.6	8.7	8.7	12.2	0.9
副作用経験別	副作用経験層	489	79.3	48.1	43.8	29.0	33.1	22.3	21.1	20.2	17.2	12.7	11.2	8.6	7.0	6.1	1.0
	副作用未経験層	936	74.5	48.1	43.6	27.1	23.1	19.1	15.0	15.3	9.4	8.7	6.4	4.9	4.5	4.5	1.7

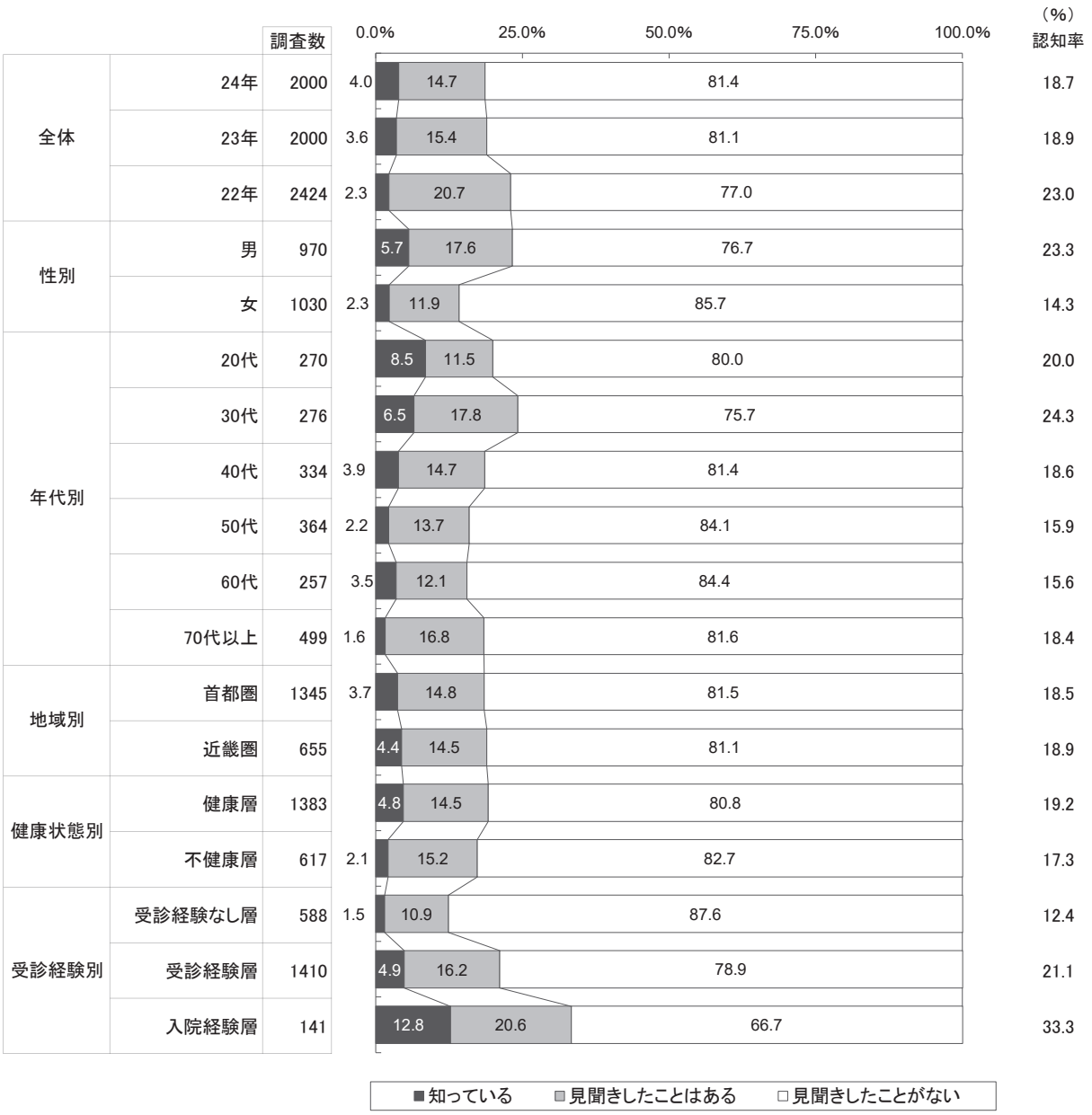
注） %値は回答者ベースで算出　　※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

（8） 日本製薬工業協会（製薬協）の認知度［ 問16 ］

日本製薬工業協会の認知率は19％で、「知っている」が4%、「見聞きしたことがある」が15%

- 「日本製薬工業協会」を「知っている」のは4.0％、「見聞きしたことはある」は14.7％、２層を合わせた認知率は18.7％である。23年調査からほぼ変動はない。
- 性別では男性の方が認知率が高い。男性が23.3％に対して女性は14.3％で、9.0ポイントの開きがある。
- 年代別にみると、最も高いのは30代の24.3％で、低いのは60代の15.6％である。「知っている」は最大の20代でも8.5％で、続く30代は6.5％、40代から上の年代は5％に満たず、最も低い70代以上は1.6％にとどまる。
- 地域による差はなく、健康状態別でも両層の差は僅かである。
- 受診経験別では受診経験層は経験なし層より8.7ポイント、入院経験層は受診経験層より12.2ポイント高い。

図表46. 日本製薬工業協会（製薬協）の認知度 （全体/属性別）



注1） %値は回答者ベースで算出

注2） 認知率＝「知っている」「見聞きしたことはある」の合計比率

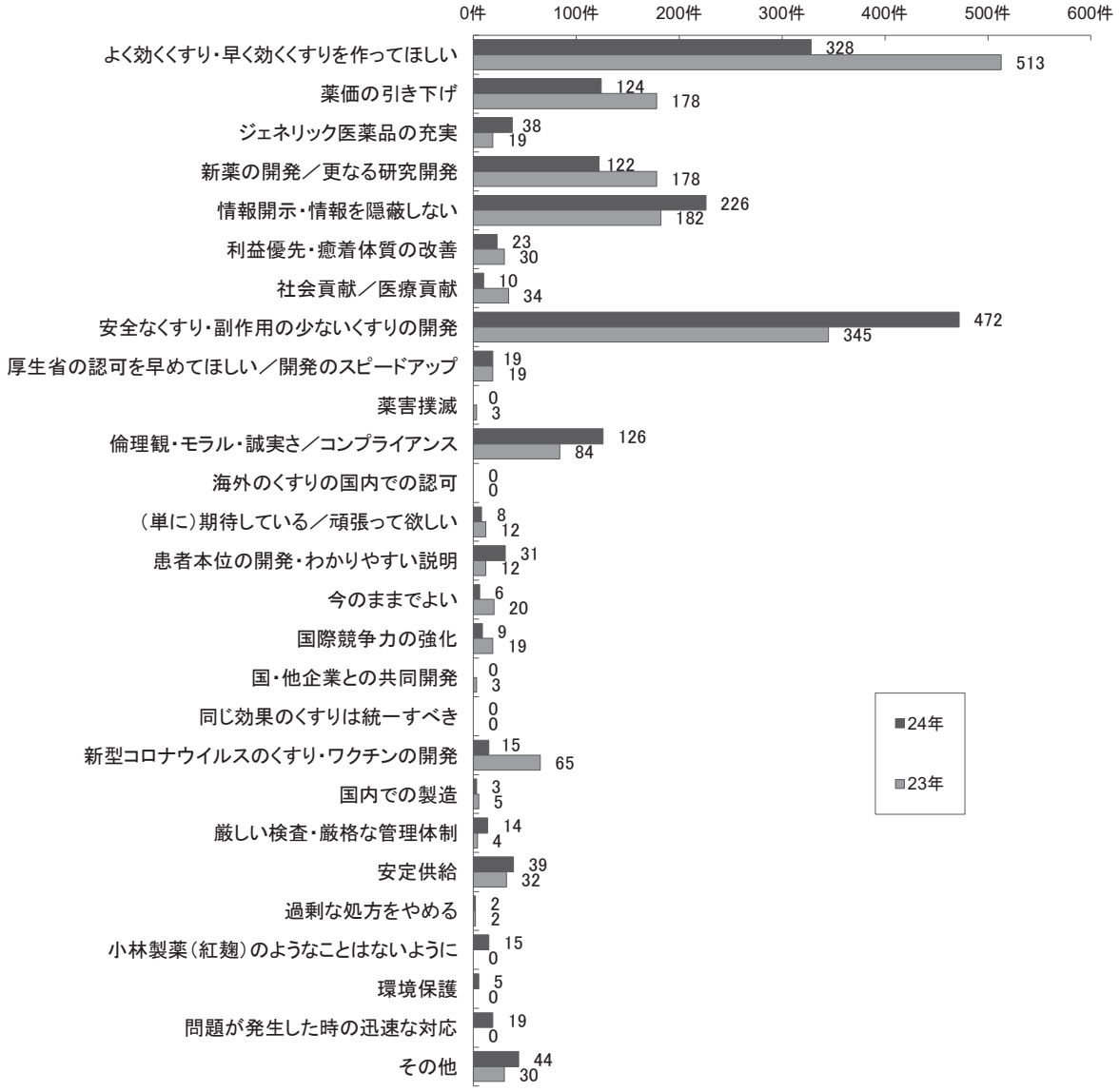
注3） 22年は「知っている」は「知っている・活動内容も知っている」、「見聞きしたことがある」は「ある程度知っている・見聞きしたことがある」、「見聞きしたことがない」は「知らない・見聞きしたことがない」として聴取

（9） 製薬産業や製薬会社に対して期待すること［ 問17　自由意見 ］

最も期待されているのは「安全なくすり・副作用の少ないくすりの開発」

■ 製薬産業や製薬会社に期待することとして最も多かったのは「安全なくすり・副作用の少ないくすりの開発」の472件である。次いで「よく効くくすり・早く効くくすりを作ってほしい」が328件となっている。これ以下は大幅に件数が減り、「倫理観・モラル・誠実さ/コンプライアンス」「薬価の引き下げ」「新薬の開発/更なる研究開発」の3項目が120件台で横並びである。
■ 23年と比べると記入件数はほぼ同じだが、「安全なくすり・副作用の少ないくすりの開発」は4割近く増加し、「よく効くくすり・早く効くくすりを作ってほしい」は4割近く減少している。

図表47. 製薬産業や製薬会社に対して期待すること （全体/24年/23年） 【自由意見】



注）ひとつの記述の中に異なる自由がある場合は、ひとつの意見としてカウントしているため、合計の件数と記入者数とは一致しない。
24年：記入率72.5%, 1,450件 / 23年：74.7%, 1,493件（特になし等除く）

3　新薬開発、治験についての認知、考え方

（1） 新薬開発についての意見［ 問18 ］

「長い年月や莫大な費用をかけても新薬開発は必要」・・90%
「製薬会社は新薬開発になぜ時間や費用がかかるのか内容を知らせるべき」・・80%
「欧米などのほうが開発の体制や技術が進んでいるので日本がやることはない」・・24%
「十分な治療薬がない疾患への治療薬開発は社会的に有意義」・・90%
「資源が少ない日本にとって新薬開発はこれからも必要」・・90%

■ 「長い年月や莫大な費用をかけても新薬開発は必要」については「そう思う」43.4%、「まあそう思う」46.9%である。同意率は90.2%で、23年から1.6ポイントの微減である。性別では女性の方が5.0ポイント高く、年代別では高年代ほど高くなる傾向がみられる。
■ 「製薬会社は新薬開発になぜ時間や費用がかかるのか、内容を知らせるべき」については「そう思う」26.6%、「まあそう思う」53.2%である。同意率は79.7%で23年から1.5ポイントの微減。性別では女性の方が同意率がやや高い。年代別では、40代以下は70%台だが、50代以上は80%とややギャップがある。
■「欧米などのほうが開発の体制や技術が進んでいるので、日本がやることはない」については「そう思う」5.9%、「まあそう思う」18.0%で、同意率は23.8%と大半が否定的である。性別では男性の方が僅かに同意率が高い。年代別では、20代と30代は30%台半ばだが、年代の上昇につれて低下し、最も低い70代以上では11.6%となる。
■ 「十分な治療薬がない疾患に対する治療薬を開発することは社会にとっても意義があることである」については「そう思う」44.1%、「まあそう思う」45.8%である。同意率は89.9%で23年とほぼ同率。性別では女性の方が7.5ポイント高い。年代別では高年代ほど顕著に高く、20代では81.5%だが、70代以上では97.6%と大差がある。
■ 「資源が少ない日本にとって新薬の開発はこれからも必要である」については「そう思う」43.8%、「まあそう思う」46.7%で、同意率は90.4%である。23年より僅かに低い。性別では女性の方がやや同意率が高い。年代別では高年代ほど高くなる傾向で、20代では83.0%だが、50代になると90%を超え、70代以上では96.8%に達する。

図表48. （1）長い年月や莫大な費用をかけても新薬開発は必要 （全体/属性別）

（%）

		調査数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	同意率
全体	24年	2000	43.4	46.9	7.0	2.8	90.2
	23年	2000	41.6	50.2	6.2	2.1	91.8
	22年	2424	42.7	49.5	6.1	1.7	92.2
	21年	2000	45.2	46.1	6.8	2.0	91.3
	20年	2000	46.1	46.5	5.8	1.7	92.6
性別	男	970	42.6	45.1	9.0	3.4	87.6
	女	1030	44.1	48.5	5.1	2.2	92.6
年代別	20代	270	37.4	44.8	13.0	4.8	82.2
	30代	276	40.6	46.0	9.1	4.3	86.6
	40代	334	35.9	50.3	9.6	4.2	86.2
	50代	364	37.4	53.8	6.3	2.5	91.2
	60代	257	46.7	46.7	5.1	1.6	93.4
	70代以上	499	55.7	41.1	2.4	0.8	96.8
健康状態別	健康層	1383	42.7	46.8	7.5	3.0	89.5
	不健康層	617	44.7	47.0	5.8	2.4	91.7
受診経験別	受診経験なし層	588	31.1	49.5	12.6	6.8	80.6
	受診経験層	1410	48.5	45.7	4.6	1.1	94.3
	入院経験層	141	51.1	43.3	5.7	0.0	94.3

■そう思う ■まあそう思う □あまりそう思わない ■そう思わない

注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 同意率＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

図表49. (2)製薬会社は新薬開発になぜ時間や費用がかかるのか、内容を知らせるべき （全体/属性別）

（%）

		調査数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	同意率
全体	24年	2000	26.6	53.2	16.6	3.8	79.7
	23年	2000	24.7	56.5	16.1	2.7	81.2
	22年	2424	23.0	57.9	16.7	2.4	80.9
	21年	2000	26.5	54.9	16.5	2.2	81.4
	20年	2000	25.4	57.0	15.7	2.0	82.4
性別	男	970	24.7	53.1	17.2	4.9	77.8
	女	1030	28.3	53.2	15.9	2.6	81.5
年代別	20代	270	26.7	45.6	21.5	6.3	72.2
	30代	276	23.9	53.6	15.6	6.9	77.5
	40代	334	21.0	54.2	21.6	3.3	75.1
	50代	364	27.2	54.9	14.3	3.6	82.1
	60代	257	28.4	52.9	15.2	3.5	81.3
	70代以上	499	30.3	55.1	13.4	1.2	85.4
健康状態別	健康層	1383	25.7	53.5	16.6	4.2	79.2
	不健康層	617	28.5	52.4	16.4	2.8	80.9
受診経験別	受診経験なし層	588	19.2	52.6	20.6	7.7	71.8
	受診経験層	1410	29.6	53.5	14.8	2.1	83.1
	入院経験層	141	34.8	46.1	17.0	2.1	80.9

■そう思う ■まあそう思う □あまりそう思わない ■そう思わない

注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 同意率＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

図表50. (3)欧米などのほうが開発の体制や技術が進んでいるので、日本がやることはない （全体/属性別）

（%）

		調査数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	同意率
全体	24年	2000	5.9	18.0	41.4	34.9	23.8
	23年	2000	5.2	17.1	43.3	34.5	22.2
	22年	2424	5.0	17.6	41.2	36.2	22.6
	21年	2000	5.9	19.2	41.0	33.9	25.1
	20年	2000	6.2	21.0	42.6	30.3	27.2
性別	男	970	6.8	19.3	37.5	36.4	26.1
	女	1030	5.0	16.7	45.0	33.4	21.7
年代別	20代	270	9.6	25.2	40.4	24.8	34.8
	30代	276	9.4	26.8	37.0	26.8	36.2
	40代	334	7.8	20.4	45.2	26.6	28.1
	50代	364	3.8	17.9	48.6	29.7	21.7
	60代	257	5.4	14.4	36.6	43.6	19.8
	70代以上	499	2.2	9.4	38.9	49.5	11.6
健康状態別	健康層	1383	6.3	19.0	41.4	33.3	25.3
	不健康層	617	4.9	15.6	41.2	38.4	20.4
受診経験別	受診経験なし層	588	4.8	21.4	42.5	31.3	26.2
	受診経験層	1410	6.3	16.5	40.9	36.4	22.8
	入院経験層	141	7.8	17.0	36.2	39.0	24.8

■そう思う ■まあそう思う □あまりそう思わない ■そう思わない

注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 同意率＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

図表51. （4）十分な治療薬がない疾患に対する治療薬を開発することは社会にとっても意義がある （全体/属性別）

（%）

		調査数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	同意率
全体	24年	2000	44.1	45.8	7.5	2.7	89.9
	23年	2000	43.4	46.7	7.8	2.2	90.1
	22年	2424	43.3	48.5	6.7	1.5	91.8
	21年	2000	42.6	46.1	9.1	2.4	88.6
	20年	2000	41.9	50.6	6.0	1.5	92.5
性別	男	970	40.2	45.8	10.7	3.3	86.0
	女	1030	47.8	45.7	4.5	2.0	93.5
年代別	20代	270	37.8	43.7	13.7	4.8	81.5
	30代	276	34.1	48.6	12.3	5.1	82.6
	40代	334	37.7	49.7	9.9	2.7	87.4
	50代	364	39.6	52.2	6.0	2.2	91.8
	60代	257	48.2	43.6	6.2	1.9	91.8
	70代以上	499	58.5	39.1	1.6	0.8	97.6
健康状態別	健康層	1383	41.4	47.2	8.3	3.0	88.6
	不健康層	617	50.1	42.5	5.7	1.8	92.5
受診経験別	受診経験なし層	588	32.1	48.3	13.1	6.5	80.4
	受診経験層	1410	49.1	44.7	5.1	1.1	93.8
	入院経験層	141	56.7	40.4		2.8	97.2

■そう思う ■まあそう思う □あまりそう思わない ■そう思わない

注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 同意率＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

図表52. （5）資源が少ない日本にとって新薬の開発はこれからも必要である （全体/属性別）

（%）

		調査数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	同意率
全体	24年	2000	43.8	46.7	6.7	2.9	90.4
	23年	2000	41.1	50.7	6.2	2.1	91.8
	22年	2424	44.0	48.3	6.3	1.4	92.3
	21年	2000	43.2	47.6	7.3	2.1	90.7
	20年	2000	42.7	49.5	6.6	1.4	92.1
性別	男	970	42.0	45.5	8.9	3.7	87.4
	女	1030	45.4	47.8	4.7	2.1	93.2
年代別	20代	270	31.1	51.9	12.6	4.4	83.0
	30代	276	35.1	49.6	7.6	7.6	84.8
	40代	334	38.3	48.8	10.8	2.1	87.1
	50代	364	39.3	53.0	6.0	1.6	92.3
	60代	257	50.6	42.8	4.7	1.9	93.4
	70代以上	499	58.7	38.1	1.8	1.4	96.8
健康状態別	健康層	1383	41.5	48.2	7.1	3.3	89.7
	不健康層	617	48.8	43.3	5.8	2.1	92.1
受診経験別	受診経験なし層	588	30.3	51.0	11.7	7.0	81.3
	受診経験層	1410	49.4	44.9	4.5	1.2	94.3
	入院経験層	141	56.7	38.3	3.5	1.4	95.0

■そう思う ■まあそう思う □あまりそう思わない ■そう思わない

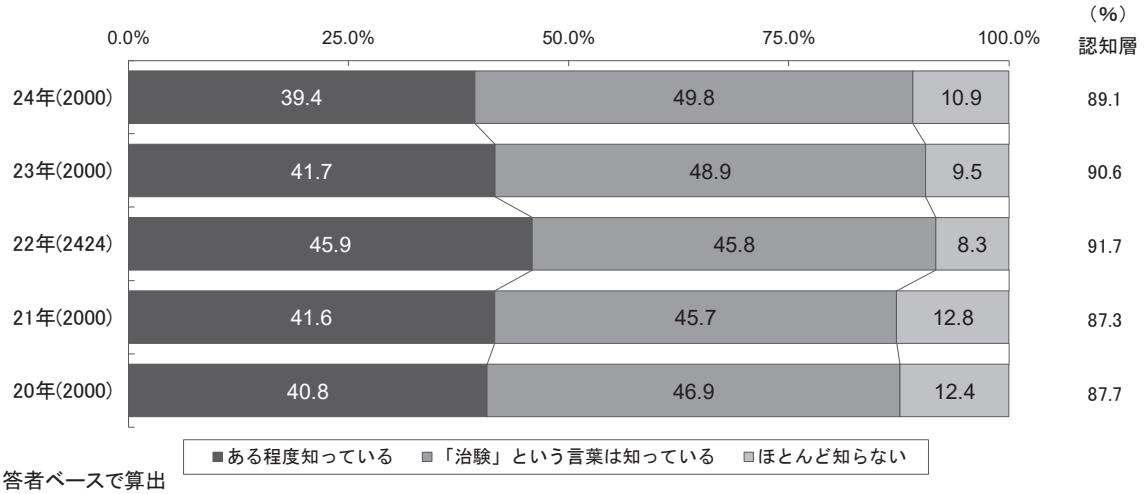
注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 同意率＝「そう思う」「まあそう思う」の合計比率

（2） 治験の認知度［ 問19 ］

「治験」の認知率は89％で、「ある程度知っている」が39％

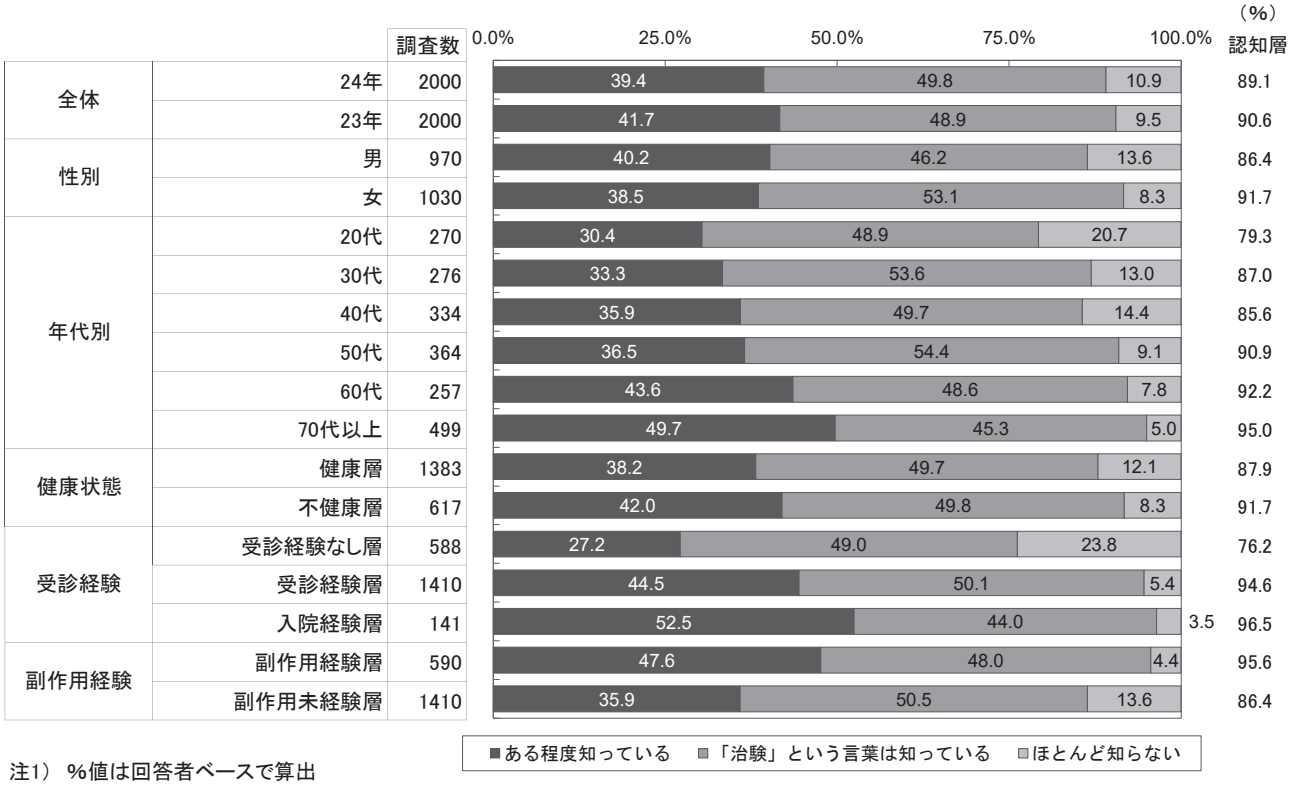
■ 治験については「ある程度知っている」39.4％、「治験という言葉は知っている」49.8％で、２層を合計した認知層の割合は89.1％となる。23年と比較すると、認知層の割合は1.5ポイントの微減である。
■ 属性別に認知率をみると、女性の方が男性より5.3ポイント高い。年代別では年代とともに認知率も上昇する傾向である。20代は79.3％、30代と40代は80％台だが、50代で90％を超え、70代以上では95.0％に達する。
■ 健康状態別では特筆するほどの差はないが、受診・入院経験層は経験なし層より20ポイント前後高く、副作用経験層は未経験層より9.2ポイント高い。

図表53. 治験の認知度 （全体/24年/23年/22年/21年/20年）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2）「認知層」＝「ある程度知っている」「言葉は知っている」の合計比率

図表54. 治験の認知度 （全体/属性別）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2）「認知層」＝「ある程度知っている」「言葉は知っている」の合計比率

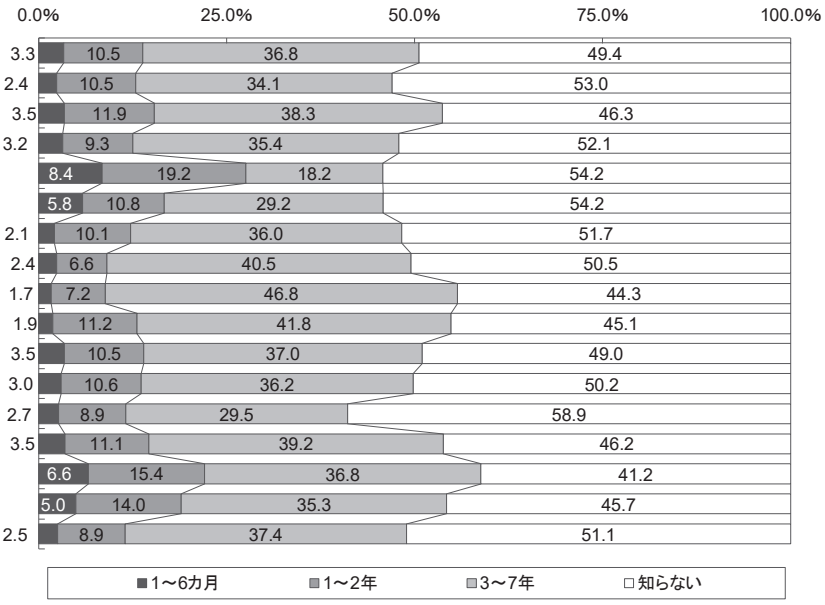
（3） 治験期間認知・費用総額認知［問19-1、問19-2 ］

治験に要する総期間は「知らない」が49%、「3～7年」が37%
承認までに要する総費用は「知らない」が57%、「～数千億円」が26%

- ■ 新薬の承認を得るための治験に要する総期間は「知らない」が49.4%で、23年より3.6ポイント低下した。
- ■ 具体的な期間の回答では「3～7年」が36.8%で最多である。「1～2年」10.5%、「1～6ヵ月」3.3%を大きく上回っている。
- ■ 性別では女性の方が「知らない」の割合が5.8ポイント高い。年代別では「3～7年」の割合が最も高いのは60代で、若年層ほど短期間を想定する傾向がある。
- ■ 治験期間を「知らない」割合は、受診経験のない層、副作用未経験層の方が高い。
- ■ 新薬の承認を得るための治験に要する費用総額は「知らない」が56.6%と過半を占める。具体的な金額では「～数千億円」が25.7%で、「～数千万円」15.7%、「～数百万円」2.0%を大きく上回る。23年と回答の割合はほぼ同じである。
- ■ 性別では、女性の方が「知らない」の割合が11.4ポイント高い。年代別では、20代の「知らない」は63.1%で他年代より高く、最も低い60代とは10.1ポイントの差である。
- ■ 治験費用総額を「知らない」割合は、受診経験のない層、受診経験層、入院経験層の順で多く、受診経験なし層と入院経験層では22.3ポイントの差がある。

図表55. 治験期間の認知程度 （全体/属性別）

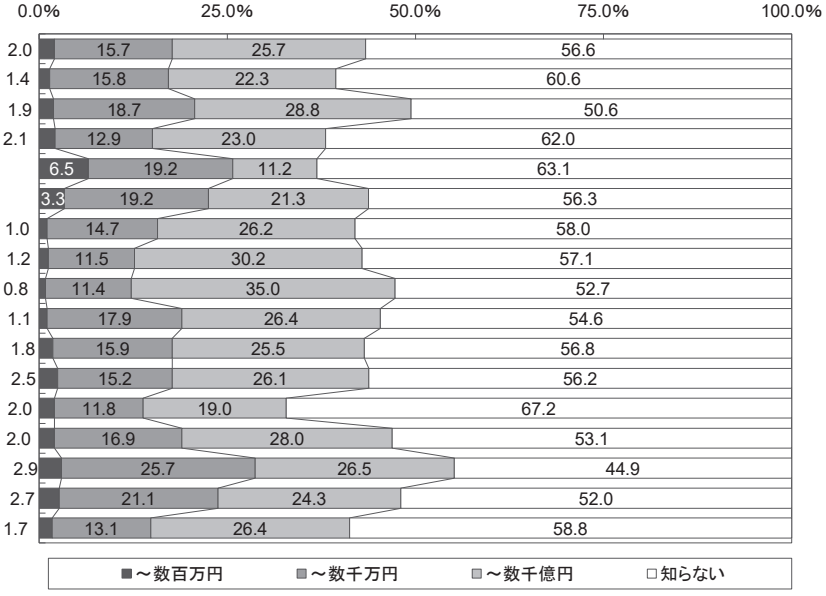
		調査数	1～6カ月	1～2年	3～7年	知らない
全体	24年	1782	3.3	10.5	36.8	49.4
	23年	1811	2.4	10.5	34.1	53.0
性別	男	838	3.5	11.9	38.3	46.3
	女	944	3.2	9.3	35.4	52.1
年代別	20代	214	8.4	19.2	18.2	54.2
	30代	240	5.8	10.8	29.2	54.2
	40代	286	2.1	10.1	36.0	51.7
	50代	331	2.4	6.6	40.5	50.5
	60代	237	1.7	7.2	46.8	44.3
	70代以上	474	1.9	11.2	41.8	45.1
健康状態別	健康層	1216	3.5	10.5	37.0	49.0
	不健康層	566	3.0	10.6	36.2	50.2
受診経験別	受診経験なし層	448	2.7	8.9	29.5	58.9
	受診経験層	1334	3.5	11.1	39.2	46.2
	入院経験層	136	6.6	15.4	36.8	41.2
副作用経験別	副作用経験層	564	5.0	14.0	35.3	45.7
	副作用未経験層	1218	2.5	8.9	37.4	51.1



注1） %値は治験認知有りベースで算出

図表56. 治験の費用総額認知 （全体/属性別）

		調査数	～数百万円	～数千万円	～数千億円	知らない
全体	24年	1782	2.0	15.7	25.7	56.6
	23年	1811	1.4	15.8	22.3	60.6
性別	男	838	1.9	18.7	28.8	50.6
	女	944	2.1	12.9	23.0	62.0
年代別	20代	214	6.5	19.2	11.2	63.1
	30代	240	3.3	19.2	21.3	56.3
	40代	286	1.0	14.7	26.2	58.0
	50代	331	1.2	11.5	30.2	57.1
	60代	237	0.8	11.4	35.0	52.7
	70代以上	474	1.1	17.9	26.4	54.6
健康状態別	健康層	1216	1.8	15.9	25.5	56.8
	不健康層	566	2.5	15.2	26.1	56.2
受診経験別	受診経験なし層	448	2.0	11.8	19.0	67.2
	受診経験層	1334	2.0	16.9	28.0	53.1
	入院経験層	136	2.9	25.7	26.5	44.9
副作用経験別	副作用経験層	564	2.7	21.1	24.3	52.0
	副作用未経験層	1218	1.7	13.1	26.4	58.8



注1） %値は治験認知有りベースで算出

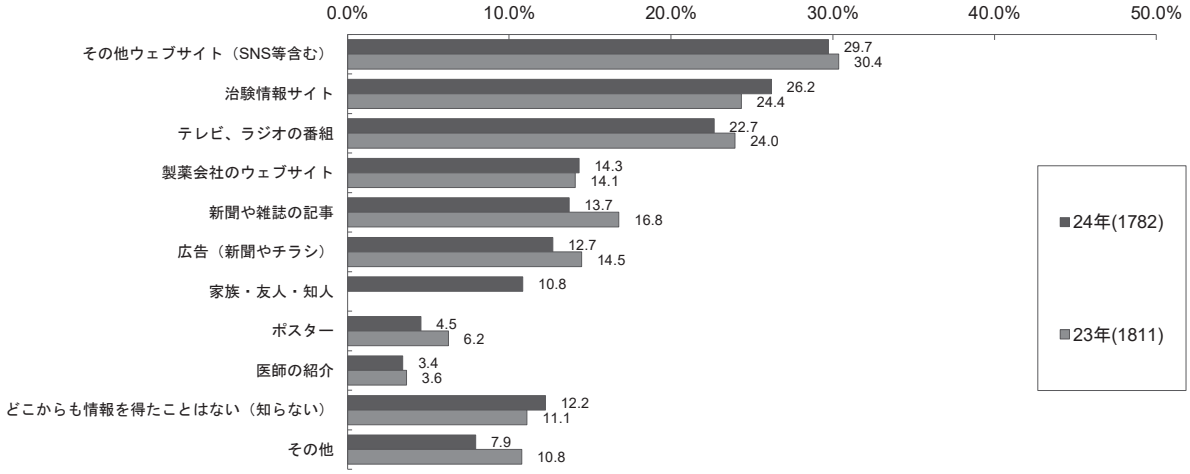
（4） 治験の認知経路［ 問20 ］

主な経路は「その他ウェブサイト（SNS等含む）」「治験情報サイト」「テレビ、ラジオの番組」

■ 治験の認知経路は「その他のウェブサイト（SNS等含む）」29.7%が最も多い。以降は「治験情報サイト」26.2%、「テレビ、ラジオの番組」22.7%の順である。「どこからも情報を得たことはない（知らない）」も12.2%を占める。

■ 年代別では「どこからも情報を得たことがない」は若年層ほど高い。60代と70代以上では「治験情報サイト」が30%を超え、70代以上では「新聞や雑誌の記事」と「広告（新聞やチラシ）」が他年代より目立って高い。

図表57. 治験の認知経路 （全体/24年/23年）



注1） %値は回答者ベースで算出

注2） 21年から「その他ウェブサイト（SNS等含む）」「治験情報サイト」を加えた

注3） 24年から「家族・友人・知人」を加えた

図表58. 治験の認知経路 （全体/属性別）

（単位：%）

		調査数	その他ウェブサイト（SNS等含む）	治験情報サイト	テレビ、ラジオの番組	製薬会社のウェブサイト	新聞や雑誌の記事	広告（新聞やチラシ）	家族・友人・知人	ポスター	医師の紹介	どこからも情報を得たことはない（知らない）	その他
全体	24年	1782	29.7	26.2	22.7	14.3	13.7	12.7	10.8	4.5	3.4	12.2	7.9
	23年	1811	30.4	24.4	24.0	14.1	16.8	14.5	－	6.2	3.6	11.1	10.8
性別	男	838	30.8	27.8	23.3	17.1	17.7	11.5	9.8	4.3	3.1	10.7	7.6
	女	944	28.8	24.8	22.1	11.9	10.2	13.8	11.8	4.8	3.7	13.6	8.2
年代別	20代	214	26.2	15.4	18.2	12.6	2.8	7.5	14.5	4.7	3.3	24.8	7.9
	30代	240	27.5	27.1	19.6	16.3	6.7	8.8	15.4	7.5	3.3	18.3	3.3
	40代	286	28.7	23.4	21.7	14.3	8.7	11.5	10.8	2.8	2.8	12.2	8.7
	50代	331	32.9	24.5	21.1	13.0	13.0	11.2	7.9	4.2	2.4	11.8	9.7
	60代	237	29.1	30.8	27.0	14.8	13.5	12.2	6.8	4.2	4.2	9.3	11.0
	70代以上	474	31.2	31.2	25.7	14.8	25.7	19.0	11.0	4.4	4.2	5.3	7.0
健康状態別	健康層	1216	28.3	25.0	21.9	14.2	14.2	12.5	10.7	4.4	2.7	13.2	7.8
	不健康層	566	32.9	28.8	24.4	14.5	12.5	13.1	11.1	4.9	4.9	10.1	8.1
受診経験別	受診経験なし層	448	30.4	18.5	20.5	10.7	9.6	9.8	9.8	2.5	1.3	17.0	8.9
	受診経験層	1334	29.5	28.8	23.4	15.5	15.1	13.6	11.2	5.2	4.1	10.6	7.6
	入院経験層	136	22.1	30.9	28.7	27.2	14.7	15.4	14.7	8.8	8.8	9.6	9.6
副作用経験別	副作用経験層	564	32.6	31.6	21.8	21.8	11.0	16.7	10.6	7.6	5.5	9.9	7.6
	副作用未経験層	1218	28.4	23.7	23.1	10.8	14.9	10.8	10.9	3.1	2.5	13.3	8.0

注） %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

（5） 臨床研究等提出・公開システム（jRCT：Japan Registry of Clinical Trials）認知 ［ 問21 ］

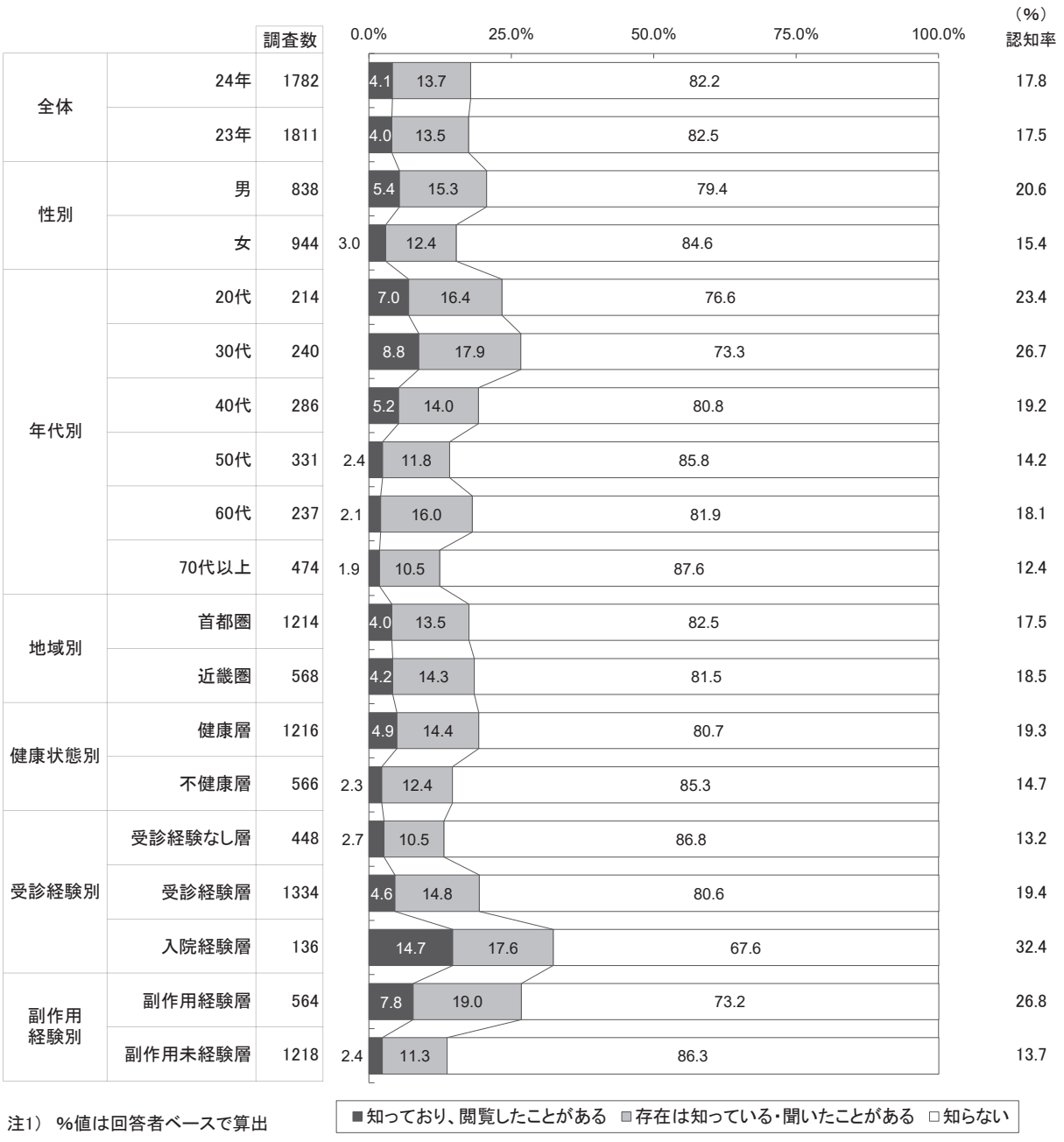
「臨床研究等提出・公開システム（jRCT）」の認知率は18％

■ 「臨床研究等提出・公開システム（jRCT）」については「知っており、閲覧したことがある」が4.1％、「存在は知っている・聞いたことがある」が13.7％で、２層を合わせた認知率は17.8％である。23年からほぼ変化はない。

■ 性別にみると、認知率は男性の方が5.2ポイント高い。年代別では30代が26.7％で最も高く、20代も23.4％だが、その上の年代は緩やかに低下し、最も低い70代以上では12.4％となる。なお、「知っており、閲覧したことがある」も30代が8.8％、20代も7.0％と他年代よりやや高い。

■ 受診経験別の認知率は、受診経験なし層では13.2％だが、受診経験層では19.4％、入院経験層では32.4％と上昇していく。副作用未経験層の認知率は26.8％で、未経験層の2倍近いスコアである。

図表59. 臨床研究等提出・公開システム（jRCT：Japan Registry of Clinical Trials）認知程度 （全体/属性別）



注1） %値は回答者ベースで算出

注2） 23年調査で新設設問

注3） 認知率＝「知っており、閲覧したことがある」「存在は知っている・聞いたことがある」の合計比率

（6） 治験に対する考え方［ 問22 ］

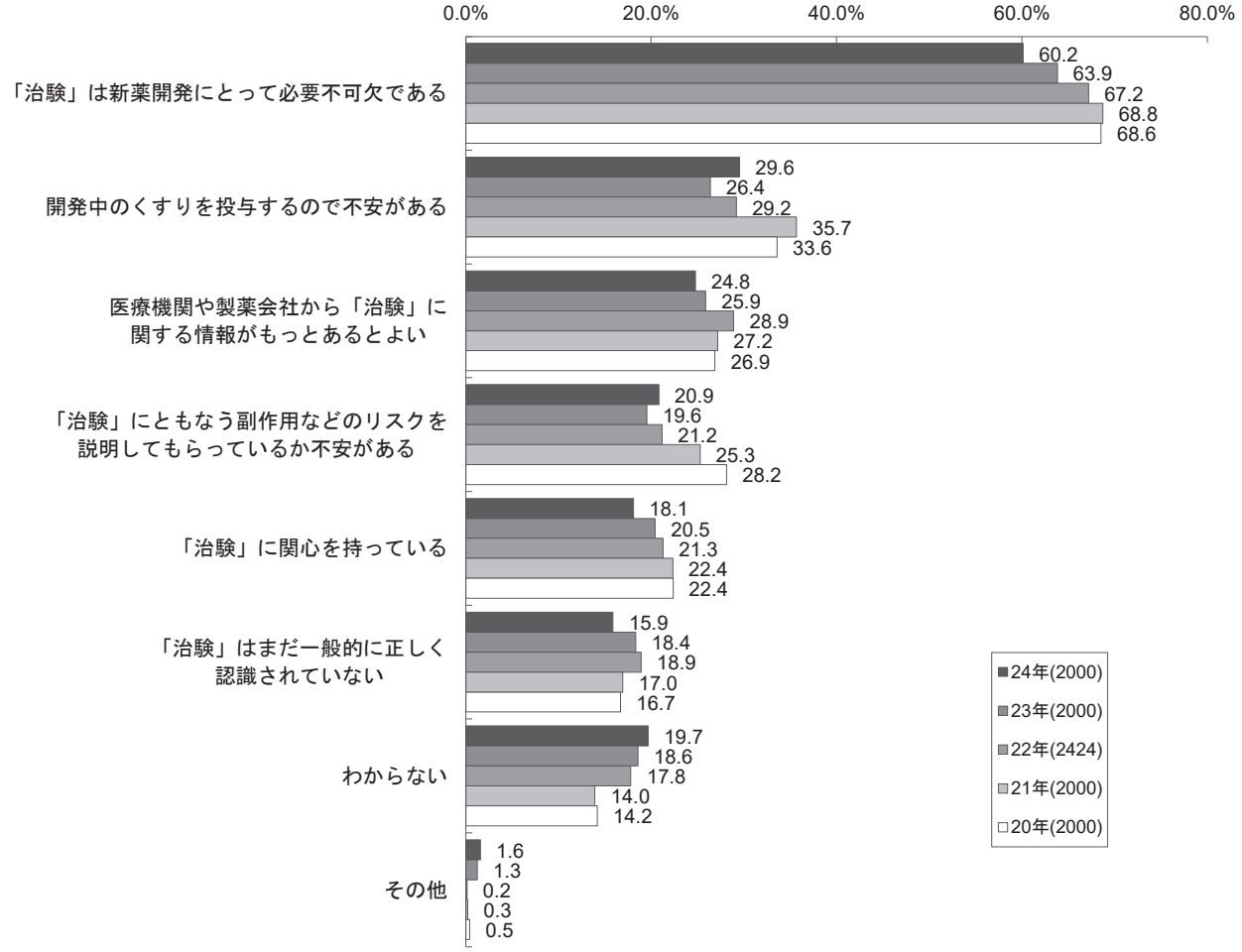
「治験は新薬開発にとって必要不可欠」との認識は60％
「開発中のくすりを投与するので不安がある」は30％
「医療機関や製薬会社から情報がもっとあるとよい」も25％

■ 治験に対する考え方については、「治験は新薬開発にとって必要不可欠である」が60.2％で最も多い。以下は「開発中のくすりを投与するので不安がある」29.6％、「医療機関や製薬会社から治験に関する情報がもっとあるとよい」24.8％と続く。「治験に関心を持っている」が18.1％を占める一方で、「治験に伴う副作用などのリスクを説明してもらっているか不安がある」も20.9％にのぼる。23年と比べるとスコアに多少の変動はあるが、各項目の順位や全体の傾向に大きな変化はない。

■ 性別では、治験への関心は男性の方が僅かに高いが、不安感は女性の方が僅かに高い。

■ 年代別では、「治験は新薬開発にとって必要不可欠である」と「医療機関や製薬会社から治験に関する情報がもっとあるとよい」は年代が上がるほどスコアも上昇する傾向である。
「治験に関心を持っている」は30代が最も高く、「治験はまだ一般的に正しく認識されていない」は70代以上が最も高い。

図表60. 治験に対する考え方 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注） %値は回答者ベースで算出

■ かかりつけ薬局のある層は「その他」と「わからない」を除く全項目で、ない層より肯定率が高い。
■ 治験の認知度別でみても、認知度が高いほど各項目の数値が高いことが顕著で、ある程度知っている層では「治験は新薬開発にとって必要不可欠である」82.1%を筆頭に、「その他」と「わからない」を除く全項目で、それ以外の層より高い。治験への関心と理解の一方で、不安も併せ持っていることがうかがえる。
■ 「治験に関心を持っている」は受診経験なし層より通院・入院経験のある層、副作用経験のない層よりある層で高いが、一方で「開発中のくすりを投与するので不安がある」でも同様の傾向となっている。

図表61. 治験に対する考え方 （全体/属性別/要因別）【複数回答】

（単位：%）

		調査数	「治験」は新薬開発にとって必要不可欠である	開発中のくすりを投与するので不安がある	医療機関や製薬会社から「治験」に関する情報がもっとあるとよい	「治験」にともなう副作用などのリスクを説明してもらっているか不安がある	「治験」に関心を持っている	「治験」はまだ一般的に正しく認識されていない	その他	わからない
全体	24年	2000	60.2	29.6	24.8	20.9	18.1	15.9	19.7	1.6
	23年	2000	63.9	26.4	25.9	19.6	20.5	18.4	18.6	1.3
性別	男	970	55.6	24.4	21.8	18.9	20.0	14.5	23.4	2.0
	女	1030	64.5	34.4	27.7	22.7	16.3	17.2	16.2	1.3
年代別	20代	270	40.7	24.1	16.7	13.0	17.0	8.1	31.5	2.6
	30代	276	51.1	31.5	16.3	23.9	23.9	14.5	23.6	1.4
	40代	334	59.6	26.3	19.2	17.7	17.4	12.9	21.9	1.2
	50代	364	57.7	29.4	24.7	21.7	14.8	11.8	22.0	1.6
	60代	257	69.3	32.7	30.0	22.6	14.4	19.8	15.2	1.6
	70代以上	499	73.1	32.1	35.1	24.0	20.2	23.8	10.4	1.4
地域別	首都圏	1345	60.9	31.2	24.2	21.8	19.6	16.9	18.6	1.6
	近畿圏	655	58.6	26.3	26.1	18.9	15.0	13.9	22.0	1.7
職業別	自営業・家族従業員層	153	64.1	27.5	24.2	23.5	24.8	13.7	17.0	2.6
	勤め人層	1004	55.0	27.9	20.4	18.5	18.0	13.8	22.4	1.7
	その他層	843	65.6	31.9	30.1	23.1	17.0	18.7	17.0	1.3
健康状態別	健康層	1383	58.6	27.8	24.2	19.6	17.5	15.2	20.4	1.5
	不健康層	617	63.5	33.5	26.3	23.7	19.4	17.5	18.2	1.8
受診経験別	受診経験なし層	588	43.5	23.8	18.7	14.6	11.6	10.0	33.8	2.7
	受診経験層	1410	67.2	31.9	27.4	23.4	20.9	18.4	13.8	1.1
	入院経験層	141	61.7	28.4	33.3	27.0	34.8	19.9	7.8	1.4
副作用経験別	副作用経験層	590	65.9	36.9	28.0	28.1	24.4	18.5	11.5	1.0
	副作用未経験層	1410	57.7	26.5	23.5	17.8	15.5	14.8	23.1	1.8
かかりつけ薬局有無別	ある	743	70.4	32.6	30.7	25.4	25.3	19.4	10.9	0.7
	ない	971	53.9	26.4	20.8	17.0	14.1	13.4	25.4	1.9
	どちらとも言えない	286	54.9	32.5	23.1	22.0	12.9	15.4	23.1	3.1
製薬産業に対する信頼感	信頼肯定層	1678	64.5	29.9	25.8	20.7	19.4	16.5	16.9	1.2
	信頼否定層	322	37.3	28.0	19.6	21.4	11.5	12.7	34.2	3.7
治験の認知度	ある程度知っている	787	82.1	37.7	34.7	29.0	30.2	22.4	3.8	0.8
	言葉は知っている	995	53.8	28.1	20.6	18.3	11.9	13.7	21.6	1.1
	ほとんど知らない	218	10.1	6.4	8.3	3.2	2.8	2.8	68.3	6.9

注） %値は回答者ベースで算出

※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

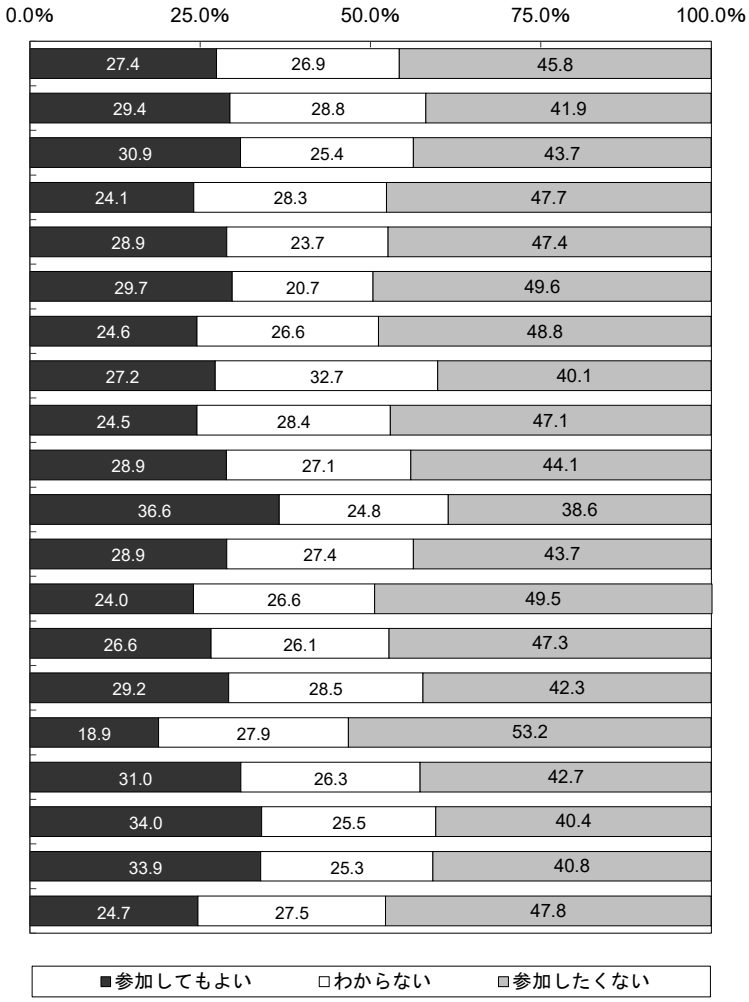
（7） 治験への参加意向［ 問23 ］

「治験」への参加意向は「参加してもよい」27％、「参加したくない」46％

■「治験」に「参加してもよい」と回答したのは全体の27.4％である。対して「参加したくない」は45.8％で、非意向者の割合が意向者の割合を大きく上回っている。前回調査と比較すると「参加したい」と「わからない」が共に微減で推移するなか、「参加したくない」のみが3.9ポイントの微増となっている。
■ 性別でみると、参加意向率は男性が女性より6.8ポイント高い。年代別では、最も高いのは20代と70代以上の28.9％で、低いのは40代の24.6％である。非意向率は30代の49.6％が最も高い。
■ 健康状態別ではほとんど差はない。受診経験別では、受診経験なし層の参加意向率が明らかに低い。一方で、副作用経験別では未経験層より経験層の方が意向率が9.2ポイント高い。

図表62. 治験への参加意向 （全体/属性別/要因別）

		調査数	参加してもよい	わからない	参加したくない
全体	24年	2000	27.4	26.9	45.8
	23年	2000	29.4	28.8	41.9
性別	男	970	30.9	25.4	43.7
	女	1030	24.1	28.3	47.7
年代別	20代	270	28.9	23.7	47.4
	30代	276	29.7	20.7	49.6
	40代	334	24.6	26.6	48.8
	50代	364	27.2	32.7	40.1
	60代	257	24.5	28.4	47.1
	70代以上	499	28.9	27.1	44.1
職業別	自営業･家族従業員層	153	36.6	24.8	38.6
	勤め人層	1004	28.9	27.4	43.7
	その他層	843	24.0	26.6	49.5
健康状態別	健康層	1383	26.6	26.1	47.3
	不健康層	617	29.2	28.5	42.3
受診経験別	受診経験なし層	588	18.9	27.9	53.2
	受診経験層	1410	31.0	26.3	42.7
	入院経験層	141	34.0	25.5	40.4
副作用経験別	副作用経験層	590	33.9	25.3	40.8
	副作用未経験層	1410	24.7	27.5	47.8



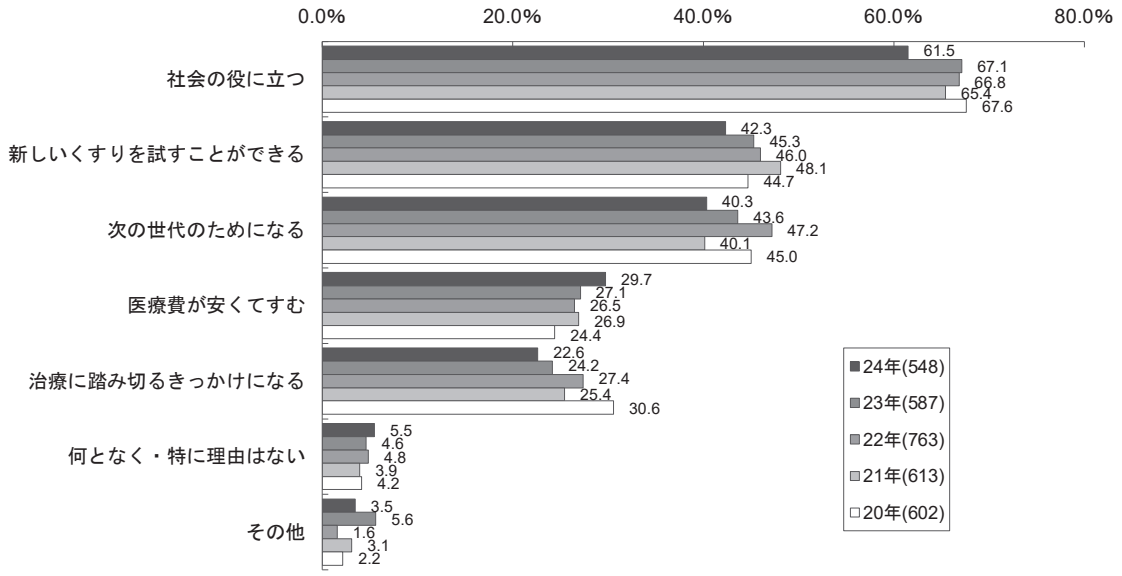
注） %値は回答者ベースで算出

（8） 治験に参加してもよい理由/参加したくない理由 ［ 問23-1/問23-2 ］

参加してもよい理由は「社会/次の世代のためになる」「新しいくすりを試せる」参加したくない理由は「副作用等のリスクが怖い」「不安がある」

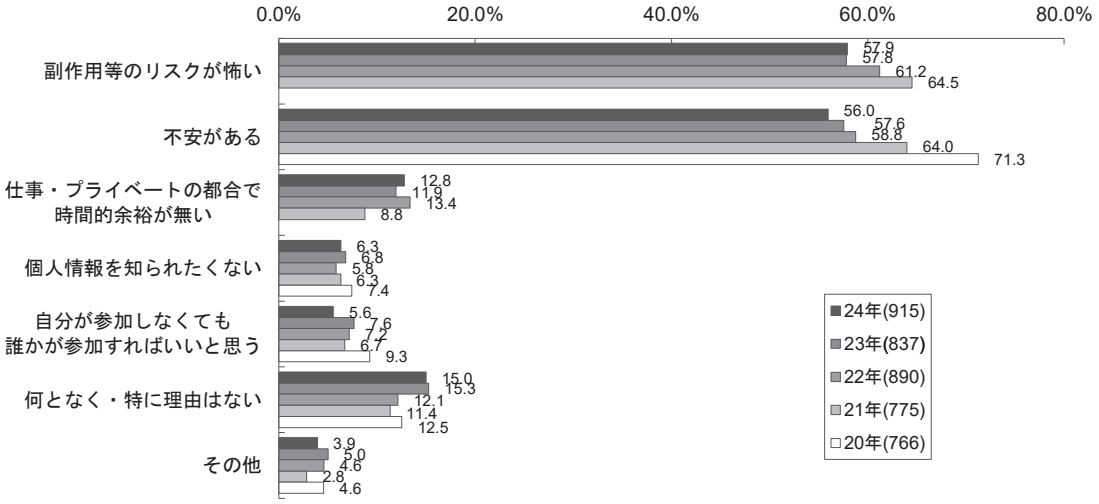
■「治験」に「参加してもよい」と思う理由は、「社会の役に立つ」が61.5%で最も高い。以下は「新しいくすりを試すことができる」42.3%、「次の世代のためになる」40.3%と続く。3項目とも、スコアは23年より僅かに低下している。他の項目でもスコアの変化はあるものの、その幅は僅かである。
■「参加したくない」と思う理由では、「副作用等のリスクが怖い」57.9%と「不安がある」56.0%が突出している。いずれの項目でも前回からのスコア変動は僅かで、順位の変動もほとんどない。

図表63. 治験に参加してもよいと思う理由 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注） %値は回答者ベースで算出

図表64. 治験に参加したくないと思う理由 （全体/24年/23年/22年/21年/20年） 【複数回答】



注1） %値は回答者ベースで算出

注2） 21年から「副作用等のリスクが怖い」「仕事・プライベートの都合で時間的余裕が無い」を加えた

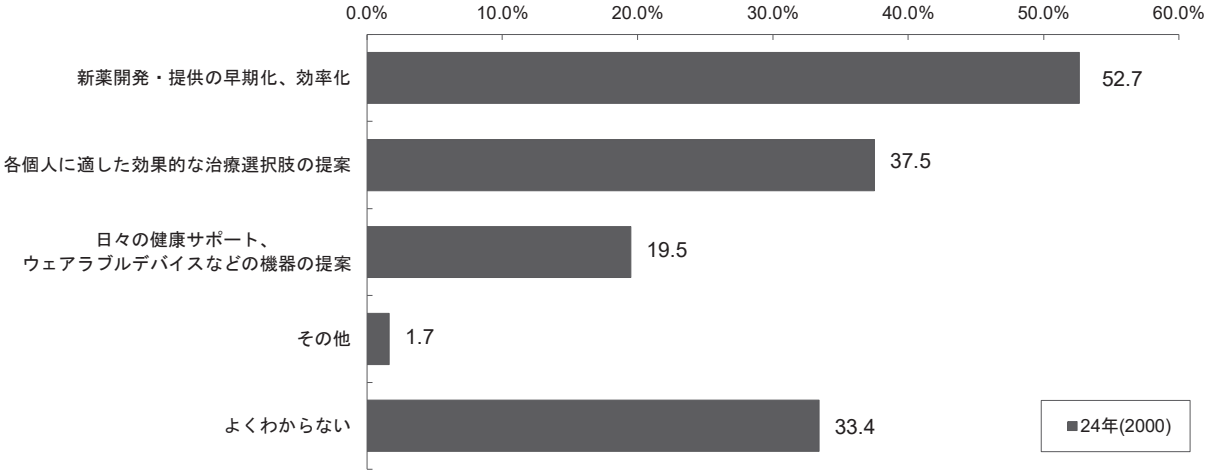
4　医療データの利活用

（1） 医療データが利活用されることで得られる国民のメリット ［ 問24 ］

医療データ利活用の最大のメリットは「新薬開発・提供の早期化、効率化」

■ 医療データが利活用されることのメリットは「新薬開発・提供の早期化、効率化」が52.7%でトップである。続く「各個人に適した効果的な治療選択の提案」37.5%「日々の健康サポート、ウェアラブルデバイスなどの機器の提案」19.5%とは大差となっている。
■ 性別では目立った差はないが、年代別にみると「新薬開発・提供の早期化、効率化」では高年代ほどスコアが上昇している。また、同項目は受診経験層、通院経験層においても目立って高い。

図表65. 医療データが利活用されることで得られる国民のメリット （全体）



注1） %値は回答者ベースで算出
注2） 24年調査で新設設問

図表66. 医療データが利活用されることで得られる国民のメリット （全体/属性別）

（単位：%）

		調査数	新薬開発・提供の早期化、効率化	各個人に適した効果的な治療選択肢の提案	日々の健康サポート、ウェアラブルデバイスなどの機器の提案	その他	よくわからない
全体	24年	2000	52.7	37.5	19.5	1.7	33.4
性別	男	970	50.9	36.0	19.9	1.6	34.9
	女	1030	54.3	38.9	19.1	1.7	31.9
年代別	20代	270	38.1	28.9	19.3	2.6	44.8
	30代	276	47.1	37.0	24.3	2.2	36.2
	40代	334	47.6	28.4	19.2	1.2	39.5
	50代	364	53.3	36.8	18.4	1.4	34.6
	60代	257	56.4	37.7	16.0	1.2	31.1
	70代以上	499	64.5	48.9	19.8	1.6	21.8
健康状態別	健康層	1383	51.8	36.1	19.1	1.5	33.8
	不健康層	617	54.5	40.7	20.4	1.9	32.4
受診経験別	受診経験なし層	588	39.5	27.2	12.8	2.2	48.3
	受診経験層	1410	58.2	41.8	22.3	1.4	27.2
	入院経験層	141	62.4	51.1	25.5	2.8	17.0
副作用経験別	副作用経験層	590	56.9	46.9	27.3	1.9	22.9
	副作用未経験層	1410	50.9	33.5	16.2	1.6	37.8

注） %値は回答者ベースで算出
※24年全体より5ポイント以上高い数値に網掛け

（2） 医療データの利活用意向［問24-1、問24-2 ］

制度認知率は49％、医療関係者への開示意向率は19％、製薬会社での活用意向率は68％

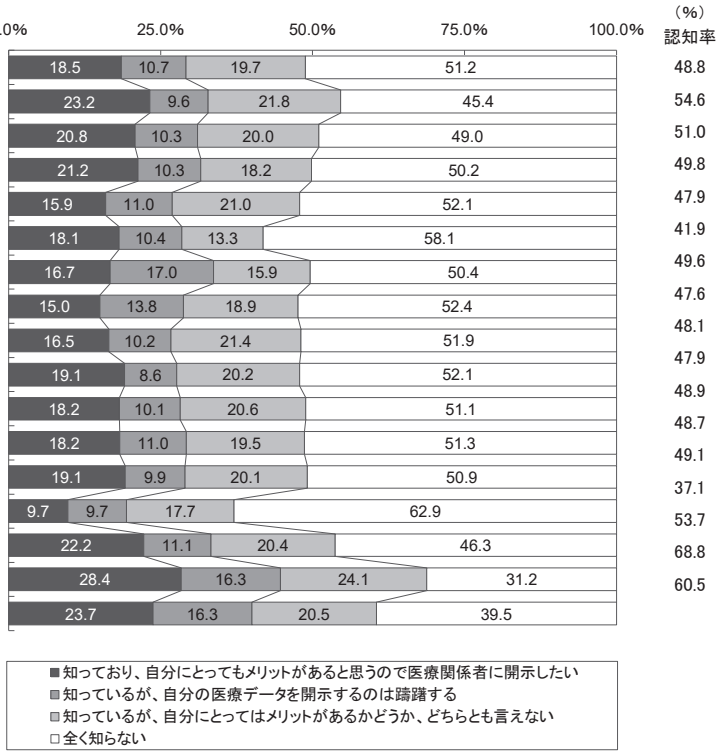
■ この制度を「知っており、自分にもメリットがあると思うので医療関係者に開示したい」のは18.5％、「知っているが、開示するのは躊躇する」は10.7％、「知っているが、自分にとってはメリットがあるかどうか、どちらとも言えない」は19.7％で、３層を合わせた認知率は48.8％である。23年から5.8ポイント低下している。

■ 性別では認知率の差はほとんどない。年代別では20代が41.9％で最も低く、30代から60代は50％弱の同水準で並び、70代以上が53.9％で最も高い。

■ 健康状態別では両層に差はないが、受診経験別では受診・入院経験のある層はない層より大幅に高く、副作用経験層も未経験層より格段に高い。

図表67. 医療データの医療関係者への開示意向 （全体/属性別）

		調査数	知っており、自分にとってもメリットがあると思うので医療関係者に開示したい	知っているが、自分の医療データを開示するのは躊躇する	知っているが、自分にとってはメリットがあるかどうか、どちらとも言えない	全く知らない	認知率
全体	24年	2000	18.5	10.7	19.7	51.2	48.8
	23年	2000	23.2	9.6	21.8	45.4	54.6
	22年	2424	20.8	10.3	20.0	49.0	51.0
性別	男	970	21.2	10.3	18.2	50.2	49.8
	女	1030	15.9	11.0	21.0	52.1	47.9
年代別	20代	270	18.1	10.4	13.3	58.1	41.9
	30代	276	16.7	17.0	15.9	50.4	49.6
	40代	334	15.0	13.8	18.9	52.4	47.6
	50代	364	16.5	10.2	21.4	51.9	48.1
	60代	257	19.1	8.6	20.2	52.1	47.9
	70代以上	499	18.2	10.1	20.6	51.1	48.9
健康状態別	健康層	1383	18.2	11.0	19.5	51.3	48.7
	不健康層	617	19.1	9.9	20.1	50.9	49.1
受診経験別	受診経験なし層	588	9.7	9.7	17.7	62.9	37.1
	受診経験層	1410	22.2	11.1	20.4	46.3	53.7
	入院経験層	141	28.4	16.3	24.1	31.2	68.8
副作用経験別	副作用経験層	590	23.7	16.3	20.5	39.5	60.5
	副作用未経験層	1410					



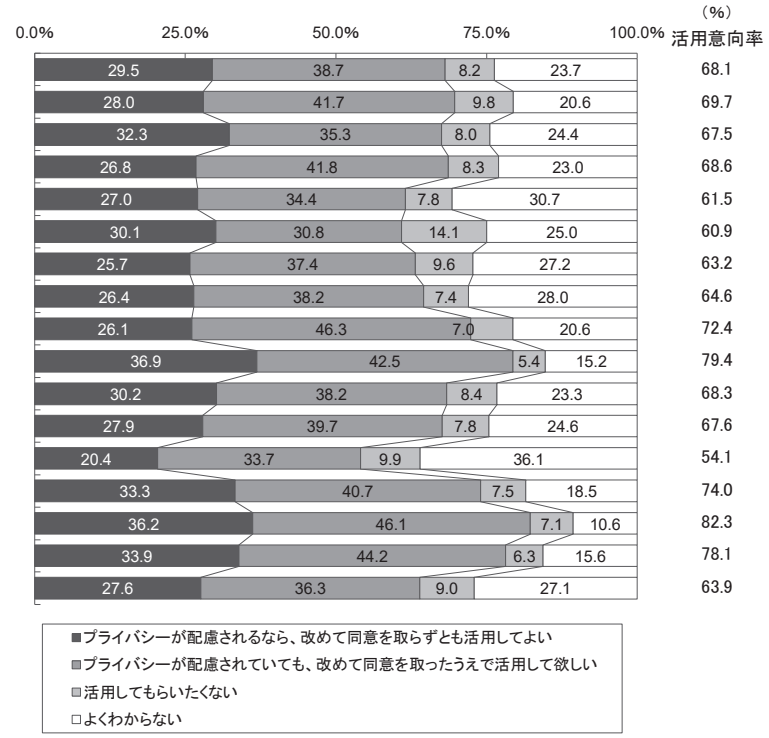
注1） %値は治験認知有りベースで算出

注2） 認知率＝「知っており、自分にとってもメリットがあると思うので医療関係者に開示したい」「知っているが、自分の医療データを開示するのは躊躇する」「知っているが、自分にとってはメリットがあるかどうか、どちらとも言えない」の合計比率

■ 医療データの製薬会社での利活用意向率は68.1%で、23年から1.4ポイントの微減。
■ 性別での差はほとんどない。年代別では、20代から50代までは60%台でほぼ横並びだが、60代になると70%を超え、70代以上では79.4%に達する。
■ 意向率は健康状態別では両層に差はないが、受診経験別では受診・入院経験のある層はない層より明らかに高く、副作用経験層も未経験層より大幅に高い。

図表68. 医療データの製薬会社での利活用意向率（全体/属性別）

		調査数	プライバシーが配慮されるなら、改めて同意を取らずとも活用してよい	プライバシーが配慮されていても、改めて同意を取ったうえで活用して欲しい	活用してもらいたくない	よくわからない	活用意向率
全体	24年	2000	29.5	38.7	8.2	23.7	68.1
	23年	2000	28.0	41.7	9.8	20.6	69.7
性別	男	970	32.3	35.3	8.0	24.4	67.5
	女	1030	26.8	41.8	8.3	23.0	68.6
年代別	20代	270	27.0	34.4	7.8	30.7	61.5
	30代	276	30.1	30.8	14.1	25.0	60.9
	40代	334	25.7	37.4	9.6	27.2	63.2
	50代	364	26.4	38.2	7.4	28.0	64.6
	60代	257	26.1	46.3	7.0	20.6	72.4
	70代以上	499	36.9	42.5	5.4	15.2	79.4
健康状態別	健康層	1383	30.2	38.2	8.4	23.3	68.3
	不健康層	617	27.9	39.7	7.8	24.6	67.6
受診経験別	受診経験なし層	588	20.4	33.7	9.9	36.1	54.1
	受診経験層	1410	33.3	40.7	7.5	18.5	74.0
	入院経験層	141	36.2	46.1	7.1	10.6	82.3
副作用経験別	副作用経験層	590	33.9	44.2	6.3	15.6	78.1
	副作用未経験層	1410	27.6	36.3	9.0	27.1	63.9



注1） %値は治験認知有りベースで算出
注2） 活用意向率＝「プライバシーが配慮されるなら、改めて同意を取らずとも活用してよい」
「プライバシーが配慮されていても、改めて同意を取ったうえで活用して欲しい」の合計比率